

資料

グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ
一次世代の商業教育に向けてー

平成30年 5月

全国商業高等学校長協会

目 次

はじめに	1
I 商業教育におけるグローバル化社会への対応の現状	
1 教育課程の実施状況について	
問1 グローバルなビジネス人材の育成を目指した商業に関する学科の設置状況	2
問2 卒業までに履修する商業に関する科目の単位数	3
2 外国語教育の実施状況について	
問3 卒業までに履修する外国語に関する科目の単位数	3
問4 商業に関する科目の中の、英語によるコミュニケーション指導について	4
問5 英語に関する各検定試験の受験状況	5
問6 全商英語検定以外の英語に関する外部検定の受験について	6
問7 英語以外の外国語指導の実施について	6
3 グローバルな人材に必要な資質を育てる指導の実施状況について	
問8 日本の伝統・文化の理解について	8
問9 外国の文化や伝統の理解について	10
問10 グローバル人材に必要な資質・能力を育てる内容が指導項目にある商業科目	13
問11 海外研修旅行等（修学旅行を含む）の実施について	14
II グローバル化社会に対応した商業教育の実施について	
1 今後の教育課程の編成	
問12 商業に関する学科の生徒に履修させる商業に関する科目について	17
問13 商業に関する学科の生徒に履修させる外国語に関する科目について	17
問14 すべての生徒に履修させる商業科目の単位数に英語の単位数を含めることについて	18
2 グローバル人材に必要な資質・能力を育てる指導の今後の在り方について	
問15 英語によるコミュニケーションの指導について	19
問16 英語に関する検定試験（外部検定を含む）の指導について	19
問17 グローバル人材に必要な資質・能力を育てる視点から、今後、深化に取り組みたい科目と指導内容について	19
3 観光教育について	
問18 観光に関する学習の実施について	22
問19 今後、観光に関する学習を通して生徒に身に付けさせたい資質・能力について	23
問20 今後、観光に関する学習に期待する成果について	23
問21 都道府県内のグローバルなビジネス人材の育成を目指した商業関連学科設置校	25
問22 都道府県内の観光に関する商業関連学科設置校	26
問23 都道府県内の観光に関する学習内容を教育課程に位置づけて指導している指導校	27
問24 問23の学校の進路状況	27
III 「商業教育におけるグローバル化人材の育成」に関する実践事例	
各都道府県テーマ一覧	35
おわりに	84
資料 本部提案テーマ年度別一覧	85

はじめに

次期の学習指導要領は、平成 29 年度中に告示され 2022 年度より実施されるスケジュールが確定しており、この本部提案が発表される予定の平成 30 年 5 月には、既に各校において具体的な内容の検討や対応への取組がスタートしていることと思われます。全国商業高等学校長協会商業教育対策委員会は、文部科学省からの発表や中央教育審議会の報告など、改訂スケジュールの進行に歩調を合わせながら、学習指導要領改訂の趣旨を生かす「次世代の商業教育の在り方」を本部提案として考察し、各校における検討のための資料として報告して参りましたが、平成 30 年春季の本部提案は、テーマを「グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ」として、引き続き「次世代の商業教育の在り方」についての考察を深めることに致しました。なお、本提案を検討する最後の委員会が開催された平成 30 年 1 月 13 日時点で、新学習指導要領の告示はされていませんが、本提案では、春季総会が開催される平成 30 年 5 月には告示済みであることを前提とし、以降は次期の学習指導要領を「新学習指導要領」と記述します。

平成 28 年 8 月に報告された中央教育審議会の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」の「はじめに」では、「グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、子供たちの成長を支える教育の在り方も、新たな事態に直面していることは明らかである。」と、グローバル化や高度情報化への対応が、未来の社会にあって豊かによりよい人生を築いていくことのできる資質・能力を育成するための課題であることを明示しています。今後の商業教育では、このようなグローバル化社会で生きるための資質・能力の育成という教育の共通課題への対応に加え、流通や金融、情報、観光、職場環境など、個々のビジネスに固有なグローバル化への対応が課題となります。平成 29 年秋季総会の本部提案では、このことについて、全国の商業高校の校長先生方がその必要性をどう捉え、今後どのような対応が必要となるか考えるかの認識を共有することを目的にアンケートを実施して考察を行いました。また、本部提案に基づいたシンポジウムでパネラーを中心とした意見交換を行い、グローバル化社会に対応した商業教育の実施状況や、実施上の課題などの把握、地域や学校の実態に根ざした多角的な視点に基づく今後の展望などについて情報を共有し理解を深めました。一方、アンケートは、まだ「グローバル化に対応した商業教育の在り方」に関する共通認識が深まっていない中で、全国の先生方の認識を把握することが目的であったため、考察の過程では、質問意図が回答に反映されていない内容、現状や今後の方向性の把握に具体性が不足している内容等について整理し、より具体的な調査を実施することが必要であるとの意見がありました。今回の提案は、この意見を受け、前回のアンケートで整理された個別の課題についての実態をより詳しく把握するとともに、今後の方向性に関する考察を深めようとするものです。アンケートにご協力いただいた校長先生方からは、単に記号の回答だけでなく、各県、各校の多様な取組等に関する多くの情報を提供していただき、全国の動向を把握する上でも充実した資料となりました。ご協力いただいた校長先生方に感謝申し上げますとともに、この本部提案が新学習指導要領の実施に向けた各校の研究にとっての一助となりますことを期待いたします。

「グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について」を平成29年度秋季に引き続き研究協議会本部提案として、全商協会会員校のうち、商業に関する学科を設置する全日制高等学校でより具体的なアンケートを実施した。本アンケートは、連絡理事校を含む各都道府県2校に対して実施したが、北海道、埼玉県、愛知県、兵庫県、岡山県、福岡県は、連絡理事校を含む3校で実施し、100校から回答を得た。

アンケートは、[Ⅰ]商業教育におけるグローバル化社会への対応の現状(問1～問11)、[Ⅱ]グローバル化社会に対応した商業教育の実施について(問12～問24)、[Ⅲ]「商業教育におけるグローバル化人材の育成」に関する実践事例で構成されている。

[Ⅰ] 商業教育におけるグローバル化社会への対応の現状

1 教育課程の実施状況について

問1 グローバルなビジネス人材の育成を目指した商業に関する学科を設置していますか。

ア 設置している	36
グローバルビジネス科:2(愛知・名古屋商)・21(大阪・ビジネスフロンティア)	※学科名:学級数
ビジネスコミュニケーション科:18(東京・千早)	
ビジネス創造科:24クラス(和歌山・和歌山商)	
ビジネス探求科(1学年1クラス):3(京都・京都すばる)	
会計システム科:3(大分・津久美)	
観光ビジネス科:1(福島・猪苗代)・3(奈良・奈良朱雀)	
国際コミュニケーション科:1(岐阜・岐阜商)	
国際ビジネス科:1(島根・松江商)・2(福岡・小倉商)・2年2クラス 3年2クラス(愛知・岡崎商)	
・3(北海道・旭川商)・4(愛知・愛知商)・5(群馬・高崎商)・各学年1学級(沖縄・中部商)	
国際科:1(各学年)(三重・宇治山田商)	
国際会計科:3(兵庫・明石商)	
国際経済科:1(北海道・函館商)・1(兵庫・小野)・1(熊本・熊本商)・1(鹿児島・鹿児島商)・1(沖縄・那覇商)	
・1学年1クラスの2クラス(愛媛・松山商)・2(大分・大分商)・3(富山・高岡商)・3(福井・福井商)	
・3(岡山・岡山南)・6(北海道・札幌東商)・各学年1学級(滋賀・八幡商)	
社会マネジメント科:2(高知・高知商)	
商業科:3(島根・松江商)・4(徳島・徳島商)・9(島根・出雲商)・15(奈良・高田商)	
情報ビジネス科:3(奈良・奈良朱雀)	
情報処理科:1(島根・松江商)・3(島根・出雲商)	
総合ビジネス科:3(大分・津久美)・6(奈良・奈良朱雀)・15(新潟・新潟商)・21(神奈川・厚木商)	
イ 設置していない	64

問2 商業に関する学科において、本年度の入学生が卒業までに履修する商業に関する科目の単位数は、何単位ですか。学科や生徒の選択によって異なるときは、そのうち、最小の単位数を基準にお答えください。

ア 35単位以上	10
イ 34～32単位	13
ウ 31～30単位	10
エ 29～27単位	23
オ 26～25単位	18
カ 24単位以下	25

〈考察〉

問1で「ア 設置している」と回答した学校は100校のうち36校であり、そのうち学科名から、「グローバル」、「国際」等明示的な名称にしているのは20校である。その学科だけがグローバル化に対応しているとは限らないと思われるが、北海道(3校)、愛知・沖縄(2校)以外は各県1又は0校であり全体的に少ない。

地域ブロックの特徴にもよるが、近畿ブロックの設置状況は顕著である。

本調査では、コースや類型については集計していないが、それを含めると件数は多くなると思われる。

問2の履修単位数については複数学科の場合、最小単位数としているため、24単位以下の学校も多く含まれている。単独商業高校の場合、外国語科目の代替履修を含め専門性の低下につながらないようなカリキュラムマネジメントが重要になってくる。

2 外国語教育の実施状況について

問3 商業に関する学科において、本年度の入学生が卒業までに履修する外国語に関する科目の単位数は、何単位ですか。学科や生徒の選択によって異なるときは、そのうち、最大の単位数を基準にお答えください。

ア 20単位以上	16
イ 19～15単位	46
ウ 14～12単位	30
エ 11～9単位	5
オ 8単位以下	2

問4 本年度開講の商業に関する科目の中で、英語によるコミュニケーションを指導していますか。
指導しているときは、科目名・単位数もご記入ください。

ア 指導している	23
「ビジネスコミュニケーション」2単位(兵庫・小野)	
「ビジネス英会話」3単位(広島・市立広島商)	
「ビジネス基礎」2単位(埼玉・岩槻商)	
「ビジネス実務」2単位(秋田・大館国際情報学院)・2単位(千葉・千葉商)・2単位(富山・高岡商)	
・2単位(福井・福井商)・2単位(滋賀・八幡商)・2単位(愛媛・松山商)・2年4単位3年3単位(愛知・岡崎商)	
・3単位(北海道・札幌東商)・3単位(愛知・名古屋商)・3単位(福井・福井商)・4単位(愛知・愛知商)	
・9単位(三重・宇治山田商)	
「異文化コミュニケーション」2単位(神奈川・厚木商)	
「英語会話」2単位(茨城・水戸商)	
「課題研究(外国文化研究)」2単位(神奈川・厚木商)	
「課題研究「英語で簿記と旅行」」2単位(三重・四日市商)	
「課題研究(EnglishCommunication)」3単位(滋賀・大津商)	
「課題研究」3単位(愛知・愛知商)・3単位(島根・出雲商)・3単位(沖縄・中部商)・4単位(奈良・高田商)	
「観光コミュニケーション」2単位(奈良・奈良朱雀)	
「国際交流実習(学校設定科目)」4単位(愛知・名古屋商)	
「実用英会話(2年2単位+3年2単位)」4単位(京都・京都すばる)	
「オリオリ(学校設定科目)」3単位(高知・伊野商)	
イ 指導していない	77

問5 次に示す、英語に関する各検定試験の受験状況をお答えください。

検定名	① 全商英語	② 実用英語	③ GTEC	④ TEAP	⑤ TOEFL	⑥ TOEIC
(1)平成28年度の受験者状況						
ア 必履修科目で履修者が原則全員受験	76	14	12	1	0	2
イ 選択科目で履修者が原則全員受験	1	5	1	0	0	0
ウ 希望者が受験	21	65	8	1	2	12
エ 受験していない	1	6	33	45	44	35
(2)受験者に対する指導						
ア 授業で指導	80	27	9	0	0	2
イ 課外で指導	15	43	5	0	0	4
ウ 受験のための指導はしていない	2	12	21	21	20	21
エ その他						
①全商英語						
部活動(英語研究部)顧問(山口・宇部商)						
②実用英語						
希望者に対し個別指導(山梨・増穂商)						
個別対応(福岡・若松商)						
個人添削(熊本・熊本商)						
⑥TOEIC						
個別対応(福岡・若松商)						
(3)主な指導担当教科						
ア 英語科	91	72	15	1	1	8
イ 商業科	5	3				

⑦その他の検定
IBA(1)「ア 必履修科目で履修者が原則全員受験」(2)「ア 授業で指導」(3)「ア 英語科」(埼玉・浦和商)
TOEIC Bridge(1)「ア 必履修科目で履修者が原則全員受験」(2)「ア 授業で指導」(3)「ア 英語科」(岐阜・大垣商)
BATIC(1)「イ 選択科目で履修者が原則全員受験」(2)「ア 授業で指導」(3)「イ 商業科」(愛知・愛知商)

問6 今年度、全商英語検定以外の英語に関する外部検定を受験する予定はありますか。

ア 実用英語	81
イ GTEC	20
ウ TEAP	1
エ TOEFL	0
オ TOEIC	10
カ 受験の予定はない	15
キ その他	3
IBA(北海道・旭川商)	
TOEIC Bridge(岐阜・大垣商)	
BATIC(愛知・愛知商)	

問7 英語以外の外国語の指導を実施していますか。

ア 教科「外国語」に設定した科目で指導を実施している。	28
韓国語「ハングルⅠ、ハングルⅡ」(山形・山形市立商)・(鳥取・米子南)	
韓国朝鮮語「韓国朝鮮語」(大阪・淀商)	
韓国語「韓国語」(島根・松江商)	
韓国語「ハングル入門」(佐賀・佐賀商)	
韓国語「アジア文化(学校設定科目)」(高知・伊野商)	
韓国語「韓国語会話」(鹿児島・鹿児島商)	
中国語「中国語Ⅰ、中国語Ⅱ」(山形・山形市立商)・(兵庫・神戸商)	
中国語「中国語」(東京・一商)・(神奈川・横浜商)・(石川・金沢商)・(滋賀・八幡商)・(島根・出雲商)・(岡山・岡山南)・(山口・防府商工)・(長崎・長崎商)・(熊本・熊本商)・(沖縄・中部商)	
中国語「外国語(選択)」(大阪・ビジネスフロンティア)	
中国語「第二外国語」(兵庫・明石商)	
中国語「外国語科」(広島・広島商)	
中国語「中国語入門」(愛媛・松山商)・(佐賀・佐賀商)	
中国語「学校設定科目「中国語」」(福岡・小倉商)	
中国語「中国語会話」(鹿児島・鹿児島商)	
中国語「中国語、実践中国語」(沖縄・那覇商)	
スペイン語「スペイン語」(神奈川・横浜商)	
イ 教科「商業」に設定した科目で指導を実施している。	12
英語・中国語・韓国語「ビジネス実務」(北海道・札幌東商)	
ハングル語「課題研究」(新潟・新潟商)・(静岡・静岡商)	
英語・中国語・韓国語「ビジネス英語・中国語・韓国語」(北海道・札幌東商)	
韓国語「課題研究」(愛知・愛知商)	
韓国語「国際コミュニケーション」(北海道・旭川商)	
中国語「ビジネスコミュニケーション」(兵庫・小野)	

中国語「ビジネス実務」(愛知・名古屋商)	
中国語「課題研究」(茨城・水戸商)・(新潟・新潟商)・(愛知・愛知商)・(愛知・名古屋商)・(宮崎・都城商)	
中国語「観光中国語」(奈良・奈良朱雀)	
中国語「中国語実務」(長崎・佐世保商)	
中国語「中国理解」(岡山・岡山東商)	
中国語・韓国語「中韓ビジネスⅠ」(北海道・札幌東商)	
中国語・韓国語「中韓ビジネス応用」(北海道・札幌東商)	
ウ 教科、科目に位置付けていないが、課外活動等で指導を実施している。	3
中国語「部活動」(北海道・札幌東商)	
スペイン語「11月に放課後3日間、入門編講座を実施」(東京・千早)	
ドイツ語「11月に放課後3日間、入門編講座を実施」(東京・千早)	
フランス語「11月に放課後3日間、入門編講座を実施」(東京・千早)	
韓国語「11月に放課後3日間、入門編講座を実施」(東京・千早)	
中国語「11月に放課後3日間、入門編講座を実施」(東京・千早)	
中国語「台湾姉妹校との交流のため」(徳島・つるぎ)	
エ 実施していない	56

〈考察〉

問3の調査結果は、「イ 19～15単位」が46校で最も多く、「ア 20単位以上」を合わせると62校(調査全体のおよそ6割)となり、多くの学校が外国語教育に力を入れて取り組んでいることが分かる。この時間数は、普通科における外国語の時間と比較しても、かなりの時間配分とみることができる。また、問4から23校において、商業に関する科目であるビジネス基礎、ビジネス実務、課題研究及び学校設定科目で英語によるコミュニケーションを指導している状況である。

次に、検定試験の平成28年度の受験状況については、問5からほとんどの学校が「原則全員受験」又は「希望者」で「全商英検」及び「実用英検」を受験し、「TEAP」、「TOEFL」及び「TOEIC」については、まだ受験する学校はほとんどない状況である。問6から、この状況は、今年度についても変わらないということが分かる。検定試験については、高大接続改革においてセンター試験に変わる大学入学共通テストにおいて民間等が実施する検定試験の活用がうたわれており、今後の動向を注視していく必要がある。

問7から分かるように、英語以外の外国語の指導は、教科「外国語」に設定して28校で行われており、中国語20校、韓国語7校、スペイン語1校という状況である。教科「商業」に設定して行っている学校も12校あり、課題研究の趣旨に沿った中で指導されている状況が伺える。また、課外活動まで含めるとドイツ語やフランス語の指導も行われている状況である。外国語教育として英語以外の中国語や韓国語を取り入れている学校があるのは、アジア圏のビジネスを見据えた学習を実施しているとみることができる。

3 グローバルな人材に必要な資質を育てる指導の実施状況

問8 日本の伝統・文化の理解について

(1) グローバル人材を育てる視点から、日本の伝統・文化の理解を指導項目に取り入れている商業科の科目はありますか。

ア ある	15
「ビジネスマネジメント」6単位(大阪・ビジネスフロンティア)	
「ビジネス基礎」3単位(大阪・ビジネスフロンティア)	
「ビジネス実務」3単位(大分・大分商)	
「課題研究(外国文化研究)」2単位(神奈川・厚木商)	
「課題研究」2単位(岡山・岡山東商)・(岡山・笠岡商)・(宮崎・都城商)	
「課題研究」3単位(埼玉・岩槻商)・(愛知・愛知商)	
「観光Ⅰ」2単位(福島・猪苗代)	
「観光Ⅱ」2単位(福島・猪苗代)	
「観光ビジネス(学校設定科目)」2単位(徳島・徳島商)	
「観光実践」3単位(福島・猪苗代)	
「観光地理学」2単位(石川・金沢商)	
「京都探求(2年3単位+3年3単位)」6単位(京都・京都すばる)	
「近江商人探究Ⅰ」1単位(滋賀・八幡商)	
「近江商人探究Ⅱ(来年度)」2単位(滋賀・八幡商)	
「国際交流実習(学校設定科目)」4単位(愛知・名古屋商)	
「商品開発」3単位(岡山・岡山東商)・5単位(徳島・徳島商)	
「総合実践」3単位(愛知・名古屋商)	
「地域と近江商人」2単位(滋賀・八幡商)	
イ 今はないが、次期の教育課程では検討する	13
ウ 今はなく、今後も未定	72

(2)グローバル人材を育てる視点から、日本の伝統・文化の理解を目的として実施している特別な活動等がありますか。ありましたら、その名称と活動内容をお答えください。

ア ある	23
1学年「盛岡さんさ踊り」への全員参加:岩手最大の夏祭りである「盛岡さんさおどり」への参加を目的として、主に「総合的な学習の時間」にその歴史や魅力を学ぶとともに、練習を重ね、1学年全員で出場している。(岩手・盛岡商)	
特色ある学校づくり(国内外における商品の企画力・販売力の強化):開発商品「さんまの缶詰」を使ったレシピ集を作成。魚食、地域の食文化を知る授業を通じた研究。(茨城・那珂湊)	
特色ある学校づくり(語学を中心としたコミュニケーションスキルの強化):日本の文化を海外に発信する力の育成。折り紙、和食等を通じた伝統文化を英語で説明する力。(茨城・那珂湊)	
ボランティア活動(地域連携):鷹狩行列(埼玉・岩槻商)	
箏曲:老人ホーム等への訪問(埼玉・浦和商)	
太鼓:和太鼓による活動。地域のイベント(ふれあい祭り、保育園納涼会、小学生チャレンジ教室の指導など)(埼玉・浦和商)	
荒馬座体験講座:日本の太鼓や踊り・うたといった人々の生活の中から生まれた民族芸能の公演・体験(東京・千早)	
国際交流:・海外姉妹校生徒の受け入れ、ホームステイ ・海外姉妹校とのTV会議システムによる交流授業 ・プレゼンテーション大会への参加 (ワールドユースミーティング、ASEP)(愛知・名古屋商)	
俳句教室の開催:外部指導者による俳句指導を実施 俳句甲子園に参加(岐阜・大垣商)	
岐阜県版SGH:課題研究においてインバウンド需要をとりこむ商品開発のために日本の強みを研究(岐阜・岐阜商)	
近江商人再生プロジェクト:参加希望生徒を募り、年間を通して近江商人の精神や商法等を学習し、夏季休業中等には近江商人の商法である「産物廻し」を活かした仕入・販売実習を東北・関東・北陸等で実習をしている。(滋賀・八幡商)	
「古典の日」:着物を着て、茶道・華道・案内などの活動(京都・京都すばる)	
特別講義:書道、茶華道、なぎなた、百人一首かるた(大阪・ビジネスフロンティア)	
和太鼓部:和太鼓演奏、各イベント等で発表(奈良・奈良朱雀)	
茶道部:茶道、各イベント等で発表(奈良・奈良朱雀)	
笠SHOP観光班:笠岡諸島のフィールドワーク(岡山・笠岡商)	
茶華道部:茶道・華道の稽古(山口・防府商工)	
茶道教室:茶道講師を招き、1年生全員がお茶作法を学び、体験する行事(香川・志度)	
遍路ウォーク:1年生全員が四国遍路88カ所の86番札所志度寺から長尾寺を経て88番札所の大窪寺までの遍路道を歩きながら、俳句の創作をする行事(香川・志度)	
授業の一環として取り組んでいる:地域の魅力を創出する(徳島・徳島商)	
授業の一環として取り組んでいる:地域に根ざした商品を開発する(徳島・徳島商)	
美馬和傘の製作:美馬市和傘製作団体の指導を受けて、美馬地域の伝統工芸である美馬和傘を製作する。地域ビジネス科を中心に10人程度が参加している。(徳島・つるぎ)	
三味線部:演奏等(高知・伊野商)	
伝統教養部:琴・茶華道・書道の部に分かれて活動(佐賀・鳥栖商)	
総合的な学習の時間による取り組み 「球磨地域学」:地域理解(熊本・球磨商)	
珠算部:そろばんを使用した珠算・暗算の指導(大分・大分商)	
郷土芸能:三味線(沖縄・那覇商)	
郷土の歴史:日本の伝統文化や地域文化の学習(沖縄・中部商)	

郷土の音楽:地域の音楽についての学習(歌や三味線等)(沖縄・中部商)	
イ 今はないが、検討予定	20
ウ ない	52

問9 外国の文化や伝統の理解について

(1)グローバル人材を育てる視点から、外国の伝統・文化の理解を指導項目に取り入れている商業科の科目はありますか。ありましたら、その科目名と単位数をお答えください。

ア ある	21
「アジア文化」2単位(高知・伊野商)	
「ビジネス実務」3単位(北海道・札幌東商)	
「グローバルビジネス」3単位(兵庫・神戸商)	
「ビジネス経済応用」2単位(北海道・札幌東商)	
「ビジネス実務」2年4単位・3年3単位(愛知・岡崎商)・4単位(愛知・愛知商)	
「異文化コミュニケーション」2単位(神奈川・厚木商)	
「課題研究(外国文化研究)」2単位(神奈川・厚木商)	
「課題研究」2単位(岡山・岡山東商)・(宮崎・都城商)・3単位(愛知・愛知商)・(島根・出雲商)	
「海外でのビジネス研修」3単位(大阪・ビジネスフロンティア)	
「観光実務Ⅱ」3単位(石川・金沢商)	
「観光中国語」2単位(奈良・奈良朱雀)	
「京都探求」2年3単位・3年3単位(京都・京都すばる)	
「国際コミュニケーション」3単位(北海道・旭川商)	
「国際マネジメント」3単位(高知・高知商)	
「国際交流実習(学校設定科目)」4単位(愛知・名古屋商)	
「国際理解」2単位(兵庫・明石商)	
「商品開発」5単位(徳島・徳島商)	
「総合実践」3単位(東京・千早)・(愛知・名古屋商)	
「中韓ビジネス応用」2単位(北海道・札幌東商)	
「中国語実務」4単位(長崎・佐世保商)	
「中国事情」3単位(山梨・甲府商)	
イ 次期の教育課程では検討する	11
ウ 今はなく、今後も未定	67

(2)グローバル人材を育てる視点から、外国の伝統・文化の理解を目的として実施している特別な活動等がありますか。ありましたら、その名称と活動内容をお答えください。

ア ある	36
イングリッシュキャンプ:国際経済科1年生全員が1泊2日の日程で、近隣のALT約10名の協力を得て、All englishで研修を行っている。(北海道・旭川商)	
海外の学校との姉妹校提携・交流:相互訪問・文化交流等(秋田・大館国際情報学院)	
海外からの留学生受入:ホームステイ・授業参加・文化交流等(秋田・大館国際情報学院)	
姉妹校との交流:中国吉林省の学校と隔年で短期の交換留学(山形・山形市立商)	
語学を中心としたコミュニケーションスキルの強化:ハワイの食文化・伝統文化などを体験するために、ハワイの文化などを理解する学習を実施。(茨城・那珂湊)	
国内外の観光に関する企画力強化 国内外における商品の企画力・販売力の強化:台湾のビジネスや観光を体験するために、台湾の観光について理解する学習を実施。食の輸入についても実践的に理解する学習を実施。(茨城・那珂湊)	
国際理解:講演会(栃木・栃木商)	
台湾高校生交流事業:台湾の高校生と先生を学校に迎えての生徒交流実施(千葉・千葉商)	
異文化理解講座:1年生全員を対象に、異文化への理解を深めるために、県の国際交流員(留学生)を招き、講座を実施している。(山梨・甲府商)	
イギリス語学研修:夏季休業中、希望者による2週間のホームステイと大学での授業(東京・千早)	
ベトナムビジネス研修:夏季休業中、希望者による1週間のベトナム経済法科大学によるビジネス研修プログラム(東京・千早)	
イングリッシュサマーキャンプ:英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とした、商業を学ぶ高校生、大学生、留学生合同の合宿(神奈川・厚木商)	
国際交流事業:マレーシアの姉妹校との国際交流(愛知・愛知商)	
2学年国際経済科 イングリッシュ・キャンプ:日時:2月中旬 1泊2日 場所:地元企業研修センター 講師:ALT2名、英語教諭2名、大学院生1名、大学准教授1名 参加者:本校国際経済科40名 ・英語を集中的に使う機会を設けることによって、英語によるコミュニケーション能力を高める。・外国人講師との交流を通じて異文化への興味・関心を深める。(富山・富山商)	
1・2学年対象 語学研修について:目的:研修目的・英語を集中的に使う機会を通して英語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。 ・英国式の規律ある共同生活を通して異文化を疑似体験することによって、グローバルマインドを育成する。 日時:3月中旬 2泊3日 参加者:1・2学年希望者 15~20名 場所:ブリティッシュヒルズ(富山・富山商)	
英語村:放課後定期的に、英語だけでコミュニケーションする空間を作り、英語を基盤としたコミュニケーション能力を向上させる。(石川・金沢商)	
海外修学旅行:台湾の伝統・文化の理解(愛知・岡崎商)	
海外インターンシップ:台湾の伝統・文化の理解(愛知・岡崎商)	
国際交流:・海外姉妹校生徒の受け入れ、ホームステイ ・海外姉妹校とのTV会議システムによる交流授業 ・プレゼンテーション大会への参加 (ワールドユースミーティング、ASEP)(愛知・名古屋商)	
岐阜県版SGH:課題研究においてインバウンド需要をとりこむため外国の事情を研究(岐阜・岐阜商)	
海外修学旅行:・3泊4日で、台湾(高雄市)姉妹校への訪問(愛知・名古屋商)	
ESS(部活動):異文化理解を目的に、JICA訪問 スピーチコンテスト参加(岐阜・大垣商)	

オーストラリア研修旅行: 語学研修を中心に異文化理解を目的に実施(大阪・ビジネスフロンティア)	
海外ビジネス研修: 海外でのビジネスに着目し、現地での調査研究(大阪・ビジネスフロンティア)	
留学生との交流: 近隣大学と連携して1年生のクラスで実施(兵庫・神戸商)	
スタディーツアー: 香港5名・シンガポール5名 2泊3日(兵庫・神戸商)	
グアムへの修学旅行: 第2学年で3泊4日で現地の高校との交流等を行う(兵庫・明石商)	
スタディーツアー: 特別活動として、JICA、NPO等を訪問する(兵庫・明石商)	
韓国姉妹校交流: 韓国の姉妹校と代表生徒による隔年の相互訪問交流(鳥取・鳥取商)	
修学旅行: フィリピンに渡航させ、学校交流や商業・文化施設の見学(岡山・岡山東商)	
オーストラリアのHigh Schoolと姉妹校連携: 語学研修、文化交流等を行い、語学力の向上と国際感覚を身に付ける(広島・広島商)	
修学旅行: 大韓民国での交流、世界文化遺産見学等(広島・市立広島商)	
ESS部: 外国人留学生との交流(年1~2回)(山口・防府商工)	
LHR「国際理解教育講演会: 県の国際交流員の先生を招いて、講師の出身国(中国)の生活習慣や文化を学び、外国の習慣文化を知り理解しあうことを学ぶ(山口・宇部商)	
国際理解教育講演会: 外国人の講師を招き、国際理解に対する意識を高め、人権的視点を含む国際感覚を養成するための講演会を全校生徒対象に実施(香川・志度)	
授業の一環として取り組んでいる: 地域(カンボジア)に根ざした商品を開発する(徳島・徳島商)	
台湾の姉妹校との交流: 平成27年度に台湾国立二林高級工商職業学校と姉妹校締結後、年間1回の台湾訪問を実施し、販売実習などの交流学习を行っている。(徳島・つるぎ)	
国際英語部: 英語によるコミュニケーションの学習や外国の文化への理解を深める(愛媛・松山商)	
シンガポール修学旅行: ・ホームステイ ・現地の学生との交流・観光(佐賀・佐賀商)	
ハウステンボス英会話プログラムへの参加: テーマパーク内での英会話実習 ・シチュエーションイングリッシュ 空港や店舗での場面を想定した会話の実習 ・街頭での会話実習(佐賀・佐賀商)	
韓国ボルギョ商業高校との国際交流: ・学校訪問 ・韓国文化の研究と見学(佐賀・佐賀商)	
世界とつながる佐賀県青少年交流推進事業: 台湾の高校との相互訪問による国際交流(佐賀・鳥栖商)	
海外語学研修: 長崎県主催で実施されている中国または韓国への語学研修に希望者が参加している。(長崎・佐世保商)	
英会話同好会: ALTと一緒に英語圏の文化理解(大分・大分商)	
海外研修旅行: 台湾へ3泊4日、ロサンゼルスへ6泊8日、香港へ3泊4日の研修を実施している。(沖縄・那覇商)	
沖縄国際センター(JICA沖縄)研修員等との交流: 各国から研修に来ている研修生との文化交流や言語交流(沖縄・中部商)	
グローバル・リーダー育成海外短期研修(県主催): 1週間台湾に派遣し地域の高校生との交流や地域文化の学習を行う(沖縄・中部商)	
イ 今はないが、検討予定	17
ウ ない	48

問10 グローバル人材に必要な資質・能力を育てる内容が年間指導計画の指導項目にある商業科目がありますか。ありましたら、科目名とグローバル人材育成に係る指導内容をお答えください。

ア ある	11
「①課題研究(ソーシャルビジネス)」「①世界の社会課題を考察する 「②総合実践」②国際理解・異文化理解 国際情勢についての調査研究 政界情勢・各国の経済状態について(東京・千早)	
「ビジネス経済応用」経済の国際化 企業経営(富山・高岡商)	
「国際会計」英文簿記の学習を中心として、海外のビジネス慣習等について理解を深める。(石川・金沢商)	
「ビジネス実務」・日本文化を外国人に伝えるプレゼンテーション(英語) ・外国人向け接客の実習(英語)(愛知・名古屋商)	
「グローバルビジネス」貿易実務、英語実務、ビジネスと海外の慣習等を指導内容に組み込んでいる(兵庫・神戸商)	
「課題研究」国際的な珠算大会の開催企画、アフリカからのフェアトレード商品の販売、地場産業(金物)の海外展開等(兵庫・小野)	
「電子商取引」ネット販売のページ作成(和歌山・和歌山商)	
「ビジネス英会話」ビジネスシーンにおける外国人に対する英語での会話を演習する。(広島・市立広島商)	
「観光ビジネス(学校設定科目)」来県する外国人観光客への案内(徳島・徳島商)	
「ビジネス経済応用」すべての指導項目において、ICT等を活用した調べ学習等を行い、日本や世界の経済動向に着目させる。(宮崎・都城商)	
「ビジネス経済応用」経済の国際化に関する指導(鹿児島・鹿児島商)	
イ ない	86

<考察>

問8(1)「日本の伝統・文化の理解を指導項目に取り入れている商業科の科目はありますか」との質問では、「ア ある」は15校であった。そのうち課題研究で対応している6校、商品開発で対応している2校、総合実践・ビジネス実務・ビジネス基礎で対応しているが各1校であった。学校設定科目で対応している学校は7校11科目であり、「ウ 今はなく、今後も未定」の回答は72校であった。過半数の学校がグローバル化社会に対応した商業教育の在り方を模索している様子が伺える。

(2)「日本の伝統・文化の理解を目的として実施している特別な活動等がありますか」との質問では、「ア ある」は23校であり、さらに「イ 今はないが、検討予定」20校を加えると約過半数になる。活動内容は日本の文化を英語で紹介する取り組みが複数あった。また、文化部の活動のなかで日本の伝統・文化の理解のために特別な活動を行っているという回答した学校もあった。

問9(1)「外国の伝統・文化の理解を指導項目に取り入れている商業科の科目はありますか」との質問では「ア ある」の回答は21校であった。そのうち課題研究で対応している5校、総合実践2校、ビジネス実務3校、ビジネス経済応用・商品開発各1校である。学校設定科目で対応している学校が14校であり、「ウ 今はなく、今後も未定」の回答は67校であった。過半数の学校がグローバル化社会に対応した商業教育の在り方を模索している様子が伺える。

(2)「外国の伝統・文化の理解を目的として実施している特別な活動等がありますか」との質問では、「ア ある」は36校であり、さらに「イ 今はないが、検討予定」17校を加えると過半数を超える。活動内容として英語を集中的に学習するイングリッシュ・キャンプを行っている事例が複数あった。

問10「グローバル人材に必要な資質・能力を育てる内容が年間指導計画の指導項目にある商業科目」について調査した。「ア ある」の回答は11校であった。その内容は様々であり、各学校の工夫がうかがえる。授業のなかでグローバルな人材に必要な資質を育てることに課題を感じている先生が多いが、特別な活動や行事のなかでグローバル人材を育成しようとしていることが伺える。

問11 海外研修旅行等(修学旅行を含む)の実施について

(1) 海外研修旅行等を実施していますか。

ア 実施している	39
イ 計画中	3
ウ 実施していない	57

(2) 実施形態について

- | | | |
|-------|-----------|---------------------------|
| ① 行事名 | ② 訪問国(国名) | ③ 対象者 |
| ④ 人数 | ⑤ 日数 | ⑥ 参加形態
(全員参加型または希望参加型) |

①(仮)北海道高等学校長協会商業部会「生徒海外研修事業」②クアラルンプール(マレーシア)③未定④10名前後(北海道全体)⑤3泊4日程度(北海道・函館商)
①海外修学旅行②シンガポール・マレーシア③高校2年生④40名⑤5日⑥希望参加型(秋田・大館国際情報学院)
①オーストラリア研修旅行(姉妹校交流)②オーストラリア③中高生(本校は中高一貫校)④15名⑤10日⑥希望参加型(秋田・大館国際情報学院)
①台湾の観光物産博・商談会への参加②台湾③起業ビジネス科④3⑤4日⑥希望参加型(茨城・那珂湊)
①ハワイ国際文化交流②アメリカ合衆国ハワイ州③2学年④10⑤7日⑥希望参加型(茨城・那珂湊)
①国際交流事業(姉妹校との相互交流)②オーストラリア③希望者④15名⑤8日間⑥希望参加型(埼玉・深谷商)
①海外語学研修②オーストラリア③1・2年生希望者④10名前後⑤10泊11日⑥希望参加型(山梨・甲府商)
①修学旅行②ベトナム③2年生④210⑤3泊5日⑥全員参加型(東京・千早)
①イギリス語学研修②イギリス③主に1年生④20～30⑤2週間⑥希望参加型(東京・千早)
①ベトナムビジネス研修②ベトナム③主に2・3年生④15～20⑤1週間⑥希望参加型(東京・千早)
①修学旅行②台湾③2年生④100名⑤4日⑥希望参加型(神奈川・厚木商)
①オーストラリア国際交流プログラム②オーストラリア国際交流プログラム③全学年④1名(今年度)⑤10日⑥希望参加型(神奈川・厚木商)
①研修旅行②アメリカ合衆国③スポーツマネジメント科④39人⑤6日⑥全員参加型(神奈川・横浜商)
①海外交流プログラム②アメリカ合衆国、台湾、カナダ③希望者④5～10人⑤6日⑥希望参加型(神奈川・横浜商)
①東アジア高校生海外研修事業②シンガポール、中国③県内で商業科目を履修している生徒④20名程度⑤3泊4日⑥希望参加型(新潟・新潟商)
①商業科生徒および教員の海外研修事業②シンガポール③1、2年④12名⑤6日⑥希望参加型(富山・富山商)
①海外研修旅行②台湾③2学年④240人⑤4泊5日⑥全員参加型(富山・高岡商)
①国際経済科海外語学研修②アメリカ(ハワイ)③1、2年 国際経済科④10人程度⑤8泊9日⑥希望参加型(富山・高岡商)
①シンガポール研修②シンガポール③1年希望者④15名前後⑤2週間⑥希望参加型(石川・金沢商)
①ハワイ語学研修②アメリカ合衆国③2年教科英語選択者④15名～40名⑤5泊6日⑥希望参加型(石川・金沢商)

①国際経済科海外研修(短期海外留学)②オーストラリア③国際経済科2年生④37⑤3週間⑥全員参加型(福井・福井商)
①修学旅行②台湾③2学年全員④239名⑤3泊4日⑥全員参加型(長野・長野商)
①修学旅行②台湾③2年生④282人⑤4泊5日⑥全員参加型(静岡・静岡商)
①国際交流事業②マレーシア③全学年④25名程度⑤5日間⑥希望参加型(愛知・愛知商)
①修学旅行②台湾③2年国際ビジネス科(2クラス)④80名⑤3泊4日⑥全員参加型(愛知・岡崎商)
①海外インターンシップ②台湾③2年希望者④6名⑤9泊10日⑥希望参加型(愛知・岡崎商)
①修学旅行②台湾③2年生(グローバルビジネス科)④40名⑤3泊4日⑥全員参加型(愛知・名古屋商)
①海外研修②オーストラリア③2年生国際コミ科全員④40人⑤2週間⑥全員参加型(岐阜・岐阜商)
①FoodExpo出展②香港③部活動④6人⑤5日(岐阜・岐阜商)
①中小企業海外進出事情調査研究②タイ③課題研究 受講者④3人⑤4日⑥希望参加型(岐阜・岐阜商)
①北米短期留学研修②アメリカ③全生徒④15名程度⑤2週間程度⑥希望参加型(三重・宇治山田商)
①モンバルク留学研修②オーストラリア③全生徒④10名程度⑤2週間程度⑥希望参加型(三重・宇治山田商)
①修学旅行②香港・マカオ(中国)③第2学年④280名⑤4日⑥全員参加型(滋賀・大津商)
①修学旅行②台湾③第2学年生徒④240名⑤3泊4日⑥全員参加型(滋賀・八幡商)
①短期海外研修②隔年 イギリス、オーストラリア③全校生徒④年度により異なるが、20名程度⑤3週間⑥希望参加型(滋賀・八幡商)
①修学旅行②アメリカ合衆国(グアム)③第2学年④350名程度⑤4泊5日⑥全員参加型(京都・京都明德)
①オーストラリア研修旅行②オーストラリア③全学年希望者④15~20⑤10日間⑥希望参加型(大阪・ビジネスフロンティア)
①国際交流②オーストラリア③生徒全員④20人⑤15日⑥希望参加型(兵庫・小野)
①修学旅行②台湾③2年生全員④280名⑤3泊4日⑥全員参加型(兵庫・神戸商)
①海外スタディーツアー②香港③2年希望者④5名⑤2泊3日⑥希望参加型(兵庫・神戸商)
①海外スタディーツアー②シンガポール③2年生希望者④5名⑤2泊3日⑥希望参加型(兵庫・神戸商)
①グアム修学旅行②アメリカ③第2学年国際会計科④40名⑤3泊4日⑥全員参加型(兵庫・明石商)
①修学旅行②台湾③2年国際ビジネス科④40名⑤3泊4日⑥全員参加型(島根・松江商)
①修学旅行②フィリピン③2年生④65名⑤5日間⑥希望参加型(岡山・岡山東商)
①岡山県商業教育協会シンガポール短期研修②シンガポール共和国③全学年④6名⑤5日間⑥希望参加型(岡山・岡山東商)
①海外ホームステイ②オーストラリア③本校在籍生徒④20⑤14⑥希望参加型(岡山・岡山南)
①修学旅行②大韓民国③観光コース(2年生)④10名⑤4日⑥全員参加型(広島・市立広島商)
①修学旅行②台湾③2年生希望者④20名程度⑤5日間⑥希望参加型(愛媛・松山商)
①短期留学海外研修②オーストラリア③2年生④8名程度(商業科は今年度は0)⑤7日間⑥希望参加型(愛媛・今治北)
①修学旅行②シンガポール③2年生④4名⑤5日間⑥希望参加型(愛媛・今治北)
①シンガポール修学旅行②シンガポール③商業科グローバルビジネスコース 情報処理科グローバルITコース④52⑤4泊5日⑥全員参加型(佐賀・佐賀商)
①韓国ボルギョ商業高校との国際交流②韓国③ハンゲル入門の履修者 商業科グローバルビジネスコース 情報処理科グローバルITコース④12⑤3泊4日⑥希望参加型(佐賀・佐賀商)
①世界とつながる佐賀県青少年交流推進事業②台湾③生徒・教員④生徒10名程度・教員3名⑤2泊3日⑥希望参加型(佐賀・鳥栖商)
①海外研修旅行②オーストラリア③国際ビジネス分野2年生④10名⑤2週間⑥希望参加型(長崎・長崎商)
①修学旅行②中華民国③生徒④82⑤4⑥全員参加型(熊本・熊本商)

①熊本県商業関係学科に学ぶ生徒海外研修②中華人民共和国③生徒④16⑤4⑥希望参加型(熊本・熊本商)
①修学旅行②シンガポール③国際経済科2年生④80名⑤4泊5日⑥全員参加型(大分・大分商)
①姉妹校交流事業②韓国③2・3年生希望者④14名⑤3泊4日⑥希望参加型(大分・大分商)
①教育旅行②台湾③1、2年希望者④10名程度⑤4～5日程度⑥(大分・津久美)
①修学旅行②シンガポール③2年国際経済科④40名⑤5泊6日⑥全員参加型(宮崎・宮崎商)
①海外研修旅行②アメリカ(ロサンゼルス)③2年国際経済科④40名⑤6泊8日⑥全員参加型(沖縄・那覇商)
①海外研修旅行②台湾③2年商業科、情報処理科、会計科④320名⑤3泊4日⑥全員参加型(沖縄・那覇商)
①海外研修旅行②香港③1年生④1年生の身10名⑤3泊4日⑥希望参加型(沖縄・那覇商)
①国際ビジネス科 海外研修②アメリカロサンゼルス③国際ビジネス科 2年生④40⑤8日⑥全員参加型(沖縄・中部商)

〈考察〉

問11では、海外研修旅行等の実施について調査している。それによると42校で海外研修旅行等が実施されている。さらに参加形態で見ると学年全員、全員参加で実施している学校が9校あり、学科・コースの希望参加で実施している学校は14校である。訪問国では台湾が15校、オーストラリアが13校、シンガポールが10校、アメリカが9校であった。

学校によっては訪問国を複数設定したり、全員参加あるいは希望参加などによって、海外研修旅行等を複数回実施している学校もあった。

[Ⅱ] グローバル化社会に対応した商業教育の実施について

1 今後の教育課程の編成

問12 商業に関する学科の生徒に履修させる商業に関する科目について

(1)卒業までに履修させる商業に関する科目の総単位数の今後の取り扱いについて

ア 単位数を増やしたい	25
イ 単位数を減らしたい	2
ウ 現状で良い	55
エ どちらとも言えない	16

(2)次期の教育課程編成で、卒業までに履修させたい商業に関する科目の単位数

ア 35単位以上	23
イ 34～32単位	23
ウ 31～30単位	30
エ 29～27単位	14
オ 26～25単位	5
カ 24単位以下	3

問13 商業に関する学科の生徒に履修させる外国語に関する科目について

(1)卒業までに履修させる教科「外国語」に属する科目の総単位数の今後の取り扱いについて

ア 増やしたい	28
イ 減らしたい	2
ウ 現状で良い	52
エ どちらとも言えない	13

(2)外国語によるコミュニケーションを取り扱う商業科の科目の単位数の今後の取り扱いについて

ア 増やしたい	28
イ 減らしたい	2
ウ 現状で良い	44
エ どちらとも言えない	24

問14 すべての生徒に履修させる商業科目の単位数に英語の単位数を含めることの、今後の取り扱いについて

(1) 現在含んでいる学校がお答えください。

ア 含める単位数を増やしたい	3
イ 含める単位数を減らしたい	5
ウ 現状を維持したい	27

(2) 現在含んでいない学校がお答えください。

ア 含める単位数を増やしたい	6
イ 現状を維持したい	63

<考察>

問12(1)卒業までに履修させる商業に関する科目の総単位数の今後の取り扱いについては、「ウ 現状で良い」が55校(約56%)、問13(1)卒業までに履修させる教科「外国語」に属する科目の総単位数の今後の取り扱いについては、「ウ 現状で良い」が52校(約55%)と、何れも半数以上の学校は「現状で良い」と回答しているが、「単位数を増やしたい」と考えている学校も問12(1)で25校(約26%)、問13(1)で28校(約29%)あり、変更が難しい教育課程の編成において今後の商業教育の在り方を考え、積極的に検討している学校も多いことが伺える。

また、問12(2)の次期の教育課程編成で、卒業までに履修させたい商業に関する科目の単位数については、「ウ 31～30単位」が30校、「イ 34～32単位」が23校、「ア 35単位以上」が23校と、80%近い学校が卒業までに商業に関する科目を30単位以上履修させたいと考えていることが伺える。問14のすべての生徒に履修させる商業科目の単位数に英語の単位数を含めることの、今後の取り扱いについての質問(1)、(2)からは、現在、商業科目の単位数に英語の単位数を含めている学校が35校(約34%)、含めていない学校が69校(約66%)と、含めていない学校の割合が高いことが伺える。また、何れの質問においても「現状を維持したい」と回答した学校が圧倒的に多く、特に現在、英語の単位を商業科目に含めていない学校においては63校(約91%)が「現状維持」と回答しており、商業科目だけで30単位以上履修させたいと考える学校が多い。

2 グローバル人材に必要な資質・能力を育てる指導の今後の在り方について

問15 英語によるコミュニケーションの指導について

ア 外国語科を中心に指導の改善を図る	18
イ 外国語科と商業科が連携して指導の改善を図る	64
ウ 外国語科、商業科がそれぞれの目的に応じて個別に改善を図る	10
エ 現状維持で良い	5
オ その他	
一部の教科だけではなく学校全体で取り組む(三重・宇治山田商)	

問16 英語に関する検定試験(外部検定を含む)の指導について

ア 外国語科を中心に検定取得を推進する	45
イ 外国語科と商業科が連携して検定取得を推進する	44
ウ 外国語科、商業科がそれぞれの目的に応じて個別に検定取得を推進する	4
エ 現状維持で良い	5
オ その他	
検定取得を目的としない(群馬・前橋商)	

問17 商業科の科目においてグローバル人材に必要な資質・能力を育てる視点から、今後、内容の深化に取り組みたい科目名をお答えください。また、その科目名で深化させたい指導内容を選択肢の記号でお答えください。

選択肢

- ア 語学力の向上に関する内容
- イ 幅広い教養を身に付けさせるための内容
- ウ メディアリテラシーの育成に関する内容
- エ コミュニケーション能力の向上に関する内容
- オ 国際交流・異文化理解に関する内容
- カ チャレンジ精神の育成に関する内容
- キ 課題解決能力やプレゼンテーション能力の向上に関する内容
- ク ビジネス実践力の向上に関する内容
- ケ 日本の伝統・文化の理解に関する内容
- コ その他

回答科目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
ビジネス基礎	2	19	2	14	12	9	8	16	5	
課題研究	14	13	7	24	27	23	41	25	13	1
総合実践	3	5	2	11	4	8	8	12	2	
ビジネス実務	11	6	2	21	15	6	5	12	6	
マーケティング	1	3	1	8	3	6	9	8	3	
商品開発	2	2	2	2	3	4	3	3	3	2
広告と販売促進		1	2	3	1	2	1	3	1	
ビジネス経済	1	5	4		3	1	1	3	2	
ビジネス経済応用	1	10	1	2	6	6	7	13	3	
経済活動と法		2	1			1	1	2		
簿記		1	1			1	1	1		
財務会計Ⅰ	1			1	1	1	1	2	1	
財務会計Ⅱ	1							1		
原価計算	1							1		
情報処理		1	5				4	2		
電子商取引	1	1	5	5	1	1	6	6		
小計	39	69	35	91	76	69	96	110	39	3

学校設定科目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
起業実践(学校設定科目)				1	1	1	1	1		
近江商人探究Ⅰ				1		1		1	1	
松山学(学校設定科目)				1		1	1	1		
流通総合					1		1	1	1	
グローバル経済							1			
マネジメント基礎				1						
ビジネスマネジメント	1	1		1	1			1	1	
国際マネジメントⅠ					1		1			
国際マネジメントⅡ						1	1			
コミュニケーション	1			1	1					
ビジネスコミュニケーション	1				1			1		
異文化コミュニケーション	1			1	1					
ビジネス英会話	1			1	1					
英会話	1									
英語会話	1			1	1					
探求英語	1									
中国語実務				1						
小計	8	1	0	10	9	4	6	6	3	0
合計	47	70	35	101	85	73	102	116	42	3

〈考察〉

今後の英語によるコミュニケーションの指導については、「イ 外国語科と商業科が連携して指導の改善を図る」が64校、「ウ 外国語科、商業科がそれぞれの目的に応じて個別に改善を図る」が10校、両方を合計すると74校で全体の75.5%となり、外国語科と商業科とで指導の改善に関わっていくことが伺える。

英語に関する検定試験の指導については、「ア 外国語科を中心に検定取得を推進する」が45校、「イ 外国語科と商業科が連携して検定取得を推進する」が44校、両方を合計すると89校で全体の89.9%となり、外国語科が検定取得に関わっていくことが伺える。

科目とその科目名で深化させたい指導内容については、現行の科目では、その科目の目標に従い指導内容を深めていることが分かる。その中では、「ク ビジネス実践力の向上に関する内容」が110、「キ 課題解決能力やプレゼンテーション能力の向上に関する内容」が96、「エ コミュニケーション能力の向上に関する内容」が91と多くなっている。学校設定科目でも同じような傾向が見られるが、「ア 語学力の向上に関する内容」が多くなり、コミュニケーション、英語関係の学校設定科目が多くなっていることが伺える。

3 観光教育について

問18 観光に関する学習の実施について

(1) 今後、観光に関する学習内容を含んだ科目を教育課程に位置づける予定はありますか。

ア 既に位置づけている	14
イ 予定、または検討する	17
ウ 予定しない	33
エ 未定	35

(2) 上記でアとお答えの学校は、以下にお答え下さい。

「実施している科目名」:使用教材
「オリオリ(学校設定科目)」:自作教材(高知・伊野商)
「観光ビジネス」:市販教材(山形・米沢商)
「観光Ⅰ」:自作教材(福島・猪苗代)
「観光Ⅱ」:自作教材(福島・猪苗代)
「観光実践」:自作教材(福島・猪苗代)
「課題研究」:自作教材(東京・千早)・(福井・福井商)・(岡山・笠岡商)
「観光実務Ⅰ」:自作教材、市販教材、専門学校等テキスト(石川・金沢商)
「観光実務Ⅱ」:自作教材、市販教材、専門学校等テキスト(石川・金沢商)
「観光地域学」:自作教材、市販教材(石川・金沢商)
「観光演習」:自作教材、市販教材、専門学校等テキスト(石川・金沢商)
「観光と広告」:市販教材(福井・武生商)
「観光マーケティング(学校設定科目)」:自作教材(福井・福井商)
「課題研究(観光基礎講座)」:自作教材(滋賀・八幡商)
「観光学Ⅰ、観光学Ⅱ、観光学応用」:専門学校等テキスト(奈良・奈良朱雀)
「観光中国語」:市販教材(奈良・奈良朱雀)
「観光コミュニケーション」:市販教材(奈良・奈良朱雀)
「商品開発」:市販教材(広島・市立広島商)
「観光実習」:市販教材(広島・市立広島商)
「観光ビジネス(学校設定科目)」:自作教材、市販教材(徳島・徳島商)
「高知イズム(学校設定科目)」:自作教材(高知・伊野商)
「松山学(学校設定科目)」:自作教材、市販教材(愛媛・松山商)
「旅行業務(学校設定科目)」:自作教材(高知・伊野商)

問19 今後、観光に関する学習を通して生徒に身に付けさせたい資質・能力について、最大3つまで選択

ア 接客等の観光業で働くための実践力	26
イ 企画力・行動力等のビジネスの実践力	74
ウ コミュニケーション能力	73
エ 実践的な英語力	19
オ 課題解決能力	36
カ 日本文化や異文化に関する理解力	43
キ 情報活用能力	14
ク その他	0

問20 今後、観光に関する学習に期待する成果について、最大3つまで選択

ア ビジネスとしての観光の基礎的理解	77
イ グローバルな視点の育成	69
ウ 観光業への就職	26
エ 地方自治体等への就職	17
オ 関連する上級学校への進学	16
カ 郷土愛の醸成	55
キ その他	3
地域創生・活性化の担い手の育成	
地域理解、地域貢献する心の育成	
日本の地理・歴史の知識の定着	

〈考察〉

問18(1)で、観光に関する学習内容を教育課程に「ア 既に位置づけている」学校は12校であり、「イ 予定、または検討する」学校が14校となっている。

上記質問(1)の アと回答した学校所在する地域を見ると、豊かな観光資源を持ち、国内や外国からの観光客が多く訪れる可能性があるため、教育課程に位置づけて学習している様子が伺える。

質問(2)の「実施している教科名」では、「観光ビジネス」「観光学」「観光実践」などの科目名で学校設定科目として実施している学校が多く、「課題研究」の講座として設けている学校もある。

教材については、多くの学校が自作教材を作成しており、中には市販教材を使用している学校もある。市販教材に関しては、専門学校等のテキストを使用しているという回答が多く見受けられる。

問19の質問、「今後、観光に関する学習を通して生徒に身に付けさせたい資質・能力について、最大3つまで選択」では、「イ 企画力・行動力等のビジネスの実践力」、「ウ コミュニケーション能力」を上げているが、この二つの資質・能力とした学校が多い。また次に「カ 日本文化や異文化に関する理解力」、「オ 課題解決能力」、「ア 接客等の観光業で働くための実践力」などが続いている。

問20の質問、「今後、観光に関する学習に期待する成果について、最大3つまで選択」では、「ア ビジネスとしての観光の基礎的理解」、「イ グローバルな視点の育成」、「カ 郷土愛の醸成」の3つが上位となっている。「キ その他」では、「地域創生・活性化の担い手の育成」、「地域理解、地域貢献する心の育成」、「日本の地理・歴史の知識の定着」が示されている。

回答から、観光を地域の資源として活用している地域では、商業を学ぶ学校で「観光」に関する学習を既に行っていることがわかった。また先行事例などを踏まえつつ「観光」に関する教育活動を検討している学校も多くあることが伺えた。

実施している科目の学習内容等については、今回の調査では調べていないが、先行して行っている学校の年間指導計画や使用教材などを入手することや直接訪問し聞き取りを行うことなど、今後「観光」に関する教育活動を推進していく予定の学校においては参考になる点が多くある。

※以下問21～24については、各都道府県の連絡理事校のみ回答

問21 貴都道府県内に、グローバルなビジネス人材の育成を目指した商業関連学科の設置校がありましたら、学校名と学科名をご記入ください。

北海道札幌東商業高等学校 国際経済科
北海道函館商業高等学校 国際経済科
北海道苫小牧総合経済高等学校 国際経済科
北海道旭川商業高等学校 国際ビジネス科
北海道釧路商業高等学校 国際ビジネス科
北海道札幌国際情報高等学校 グローバルビジネス科
北海道千歳高等学校 国際流通科
宮城県松島高等学校 観光科
秋田県立大館国際情報学院高等学校 国際情報
山形市立商業高等学校 国際コミュニケーション科
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 国際経済科
埼玉県立所沢商業高等学校 国際流通科
川越市立川越高等学校 国際経済科
東京都立千早高等学校 ビジネスコミュニケーション科
東京都立大田桜台高等学校 ビジネスコミュニケーション科
福井県立福井商業高等学校 国際経済科
滋賀県立八幡商業高等学校 国際経済科
滋賀県立長浜北星高等学校 総合学科国際ビジネス系列
滋賀県立大津商業高等学校 総合ビジネス科国際ビジネス類型
大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校 グローバルビジネス科
兵庫県立小野高等学校 国際経済科
兵庫県立洲本実業高等学校 国際ビジネス科
明石市立明石商業高等学校 国際会計科
島根県立松江商業高等学校 国際ビジネス科
徳島県立徳島商業高等学校 商業科
徳島県立つるぎ高等学校 地域ビジネス科
福岡県立小倉商業高等学校 国際ビジネス科
佐賀県立佐賀商業高等学校 グローバルビジネス科(H30年度設置)
大分県立大分商業高等学校 国際経済科

※商業関連学科ではないが、回答があった学科については記載をした。

問22 貴都道府県内に、観光に関する商業関連学科の設置校がありましたら、学校名と学科名をご記入ください。

青森県立十和田西高等学校 観光科
宮城県松島高等学校 観光科
福島県立猪苗代高等学校 観光ビジネス科
栃木県立那須高等学校 リゾート観光科
愛知県立古知野高等学校 総合ビジネス科
愛知県立新城高等学校 ビジネス創造科
三重県立鳥羽高等学校 総合学科
近江高等学校 商業科キャリアコース観光ビジネス系列
奈良県立奈良朱雀高等学校 観光ビジネス科
徳島県立徳島商業高等学校 商業科
高知県立伊野商業高等学校 キャリアビジネス科 ツーリズムコース
佐賀県立嬉野高等学校 総合学科(観光・流通系列)
長崎県立小浜高等学校 ビジネス・観光科
沖縄県立浦添商業高等学校 国際観光科

<考察>

問21のグローバルなビジネス人材の育成を目指した商業関連学科の設置校に関する回答は、30校となっている。2ページ問1の学校との重複や異なる学校名も回答されているが、連絡理事校の回答のため、整合性が取れていない可能性がある。

総合学科で学んでいるとの回答もあった。このことは、生徒減少の中で、地域の実情などから従前の商業科設置校と他の高校を再編整備し、総合学科として設置し、多様なカリキュラムを設けたことによるものと考えられる。

問22の徳島商業高校は、学科としては設置をしていないが、商業科の中に観光関連の科目を設け、学習を深める教育課程を組んでいると推測できる。

問23 貴都道府県内に、観光に関する学習内容を含んだ科目を教育課程に位置づけて指導している学校は何校ありますか。

問24 問23で位置づけている学校があるとき、その進路状況について、お答えください。
(複数校ある場合は、主な学校1校を選び記入)

北海道	問23	2	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の		6.4	%	(昨年度実績)
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の		0.9	%	(昨年度実績)
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)			エ	運輸業(観光輸送関連)	○
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○		オ	製造業(名産品、土産等)	○
ウ	飲食業			カ	観光関連公共機関		
キ その他							
小売業(土産販売店)							
青森県	問23	2	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の		5.8	%	(昨年度実績)
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の		0	%	(昨年度実績)
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)			エ	運輸業(観光輸送関連)	○
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○		オ	製造業(名産品、土産等)	
ウ	飲食業			カ	観光関連公共機関		
キ その他							
宮城県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の		30	%	(昨年度実績)
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の		0	%	(昨年度実績)
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)			エ	運輸業(観光輸送関連)	
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○		オ	製造業(名産品、土産等)	○
ウ	飲食業	○		カ	観光関連公共機関		
キ その他							
山形県	問23	2	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の		6	%	(昨年度実績)
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の		0	%	(昨年度実績)
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)			エ	運輸業(観光輸送関連)	
	イ	宿泊業(観光ホテル等)			オ	製造業(名産品、土産等)	○
ウ	飲食業			カ	観光関連公共機関		
キ その他							
主に観光客を対象とした、お土産等の販売業							

福島県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の	7.6	%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の	0	%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)			
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関	○		
キ その他							
栃木県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の	11.1	%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の	0	%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
イ	宿泊業(観光ホテル等)		オ	製造業(名産品、土産等)	○		
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関			
キ その他							
群馬県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の	1.4	%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の	0	%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
イ	宿泊業(観光ホテル等)		オ	製造業(名産品、土産等)	○		
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関	○		
キ その他							
山梨県	問23	3	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の	2.9	%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の	0	%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)			
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関			
キ その他							

石川県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	16.5	%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0.4	%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		○	エ	運輸業(観光輸送関連)	○
	イ	宿泊業(観光ホテル等)		○	オ	製造業(名産品、土産等)	○
ウ	飲食業		○	カ	観光関連公共機関		
キ その他							
福井県	問23	6	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	1.4	%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)			エ	運輸業(観光輸送関連)	○
	イ	宿泊業(観光ホテル等)			オ	製造業(名産品、土産等)	
ウ	飲食業			カ	観光関連公共機関		
キ その他							
長野県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の		%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の		%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)			エ	運輸業(観光輸送関連)	
	イ	宿泊業(観光ホテル等)			オ	製造業(名産品、土産等)	
ウ	飲食業			カ	観光関連公共機関		
キ その他							
※「国際観光科」は平成28年度に開設されたため、まだ卒業生が出ていない。							
静岡県	問23	2	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	10.6	%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)			エ	運輸業(観光輸送関連)	○
	イ	宿泊業(観光ホテル等)		○	オ	製造業(名産品、土産等)	○
ウ	飲食業		○	カ	観光関連公共機関	○	
キ その他							
神社・巫女							

愛知県	問23	2	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	3.9	%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)	○	
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)		
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関	○		
キ その他							
三重県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	6	%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)	○	
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関			
キ その他							
滋賀県	問23	2	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	0.08	%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)		
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関			
キ その他							
京都府	問23	3	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	2	%(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	2	%(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)	○	
ウ	飲食業	○	カ	観光関連公共機関			
キ その他							

大阪府	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	1	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	5	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)		
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関			
キ その他							
奈良県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	2.4	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	1	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)	○	
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)	○	
ウ	飲食業	○	カ	観光関連公共機関			
キ その他							
和歌山県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	1.5	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)	○	
ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関			
キ その他							
広島県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	10	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	1	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)	○	
ウ	飲食業	○	カ	観光関連公共機関			
キ その他							

山口県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の		%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の		%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)		オ	製造業(名産品、土産等)		
	ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関		
	キ その他						
観光ホテルに1名就職したが事務職として就職。							
徳島県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の	0.7	%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の	0	%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)		
	ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関		
	キ その他						
愛媛県	問23	2	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の	0	%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の	0	%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)		オ	製造業(名産品、土産等)		
	ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関		
	キ その他						
現業							
高知県	問23	3	校				
	問24	(1)観光関係就職者数	卒業生全体の	3	%	(昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数	卒業生全体の	0.02	%	(昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)		
	ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関		
	キ その他						

佐賀県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	8.9	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)		オ	製造業(名産品、土産等)		
	ウ	飲食業	○	カ	観光関連公共機関		
	キ その他						
	巫女						
長崎県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	9.5	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)	○	
	ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関		
	キ その他						
熊本県	問23	1	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	0.06	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	0	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)	○	
	ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関		
	キ その他						
沖縄県	問23	4	校				
	問24	(1)観光関係就職者数		卒業生全体の	2.5	% (昨年度実績)	
		(2)大学の観光関係学科への進学者数		卒業生全体の	3.75	% (昨年度実績)	
		(3)観光関係の主な就職先(複数回答可)					
	ア	旅行業(旅行代理店等)		エ	運輸業(観光輸送関連)		
	イ	宿泊業(観光ホテル等)	○	オ	製造業(名産品、土産等)		
	ウ	飲食業		カ	観光関連公共機関		
	キ その他						

〈考察〉

問23の観光に関する学習内容を含んだ科目を教育課程に位置づけている学校数について、28の道府県(1道2府25県)で設置している。

学校数は多い順に、6校 福井県、4校 沖縄県、3校 山梨県・京都府・高知県、2校 北海道・青森県・山形県・静岡県・愛知県・滋賀県・愛媛県、1校 宮城県・福島県・栃木県・群馬県・石川県・長野県・三重県・大阪府・奈良県・和歌山県・広島県・山口県・徳島県・佐賀県・長崎県・熊本県であった。

各道府県で観光に関する科目を既に設置している学校は、地域に観光資源を持ち、観光客が多く訪れていることなどから、地域の観光を担う人材を育成する必要などがあり教育課程に位置づけ、学習していると考えられる。

問24「(1)観光関係就職者数」について、

- ①宮城県 30.0% ②石川県 16.5% ③栃木県 11.1% ④静岡県 10.6%
⑤広島県 10.0% ⑥長崎県 9.5% ⑦佐賀県 8.9% ⑧福島県 7.6%
⑨北海道 6.4% ⑩山形県・三重県 6.0%、青森県 5.8%

就職者の割合が高い順に示した。上記に示した以外の府県における就職者は、4%以下と極めて少ない状況にある。観光に関する学科の就職先を観光としてあげている学校の中で、観光関連の就職者が多いところで30%程度であり、3位以下の県では、10%台から数%となっている。

観光に関する就職先の会社の規模や職務内容と卒業生の就職先に関連した細かな内容について、今回の調査からは知ることができないが、企業の状況などから毎年継続して高校生を採用できる状況にない可能性も考えられる。

「(2)大学の観光関係学科への進学者数」について、

- ①大阪府 5.0% ②沖縄県 3.75% ③京都府 2% ④広島県 1%
⑤北海道 0.9% ⑥石川県 0.4% ⑦高知県 0.02%

観光関係の学部への進学者がいると回答したのは、7道府県であった。数値から類推すると、進学者の多い学校でも数名ではないかと思われる。多くの生徒が大学ではなく、専門学校等に進学しているのではないかと考えられる。

「(3)観光関係の主な就職先」について、

就職者が就いた業種の順は、以下のとおりである。

- ① イ 宿泊業(観光ホテル) 20 ② オ 製造業(名産品、土産等) 14
③ ウ 飲食業、エ 運送業(観光輸送関連) 各7 ④ カ 観光関連公共機関 4
⑤ ア 旅行業(旅行代理店) 1
⑥ キ その他(巫女 2、観光ホテル(事務1) 1、学科設置が本年度のため卒業生なし)

今回の回答からは、各学校が観光に関する学科や専門科目を学んだ後の進路をどのように考え学科等を設置したかを示すことはできないが、就職先は宿泊業や名産品や土産物の製造販売が多く、次いで飲食業、運送業(観光輸送関連)となっている。就職先の状況から、学科の卒業生が、地域の観光を支える就職先となっている様子が伺える。また観光を広く捉えると、観光名所となっている神社などもあるので、そういった観光の拠点となる場所で、巫女などの職業に就く生徒が数名いたことは興味深い。

業種の中で、「④ カ 観光関連公共機関への就職」と回答した県は、福島県・群馬県・静岡県・愛知県の4県となっている。

〔Ⅲ〕「商業教育におけるグローバル化人材の育成」に関する実践事例（各県1校）

グローバル化に対応した取組の実践事例を次の内容を参考にご記入いただきました。

国際交流、海外留学、外国人受入れ、日本や地域の伝統・文化理解、異文化理解、ESD（持続可能な開発のための教育）、外国語指導、主体性やチャレンジ精神の育成、情報通信技術の活用 等

都道府県名	学校名	テーマ	頁
北海道	北海道札幌東商業高等学校	語学力を生かしたホスピタリティマネジメントとコミュニケーション～北海道の観光関連産業で活躍するグローバル・リーダーの育成～	36
青森県	青森県立八戸商業高等学校	英語によるコミュニケーション力を備えた人材の育成	37
岩手県	岩手県立盛岡商業高等学校	岩手県が進める「被災地高校生グローバル商品開発力等促進事業」の紹介	38
宮城県	宮城県一迫商業高等学校	『栗原版デュアルシステム』の実践	39
秋田県	秋田県立能代松陽高等学校	グローバルな視野で未来を切り拓く力を持つ人間の育成	40
山形県	山形市立商業高等学校	プレゼンテーション～自主性とコミュニケーション能力を育成する～	41
福島県	福島県立猪苗代高等学校	国際交流（ガーナ、台湾の2か国）	42
茨城県	茨城県立那珂湊高等学校	「創造力・企画力・説明力」をもった国際的人材の育成	43
栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商業教育におけるグローバル化人材の育成	44
群馬県	太田市立太田高等学校	市立太田「グローバル人材育成プログラム」実践事例	45
埼玉県	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	海外連携「新食料品類（お菓子など）の開発」	46
千葉県	千葉県立一宮商業高等学校	地域に誇りを持てるグローバル人材の育成	47
山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	海外語学研修	48
東京都	東京都商業教育研究会	English Business-Plan Contestの開催	49
神奈川県	神奈川県立厚木商業高等学校	イングリッシュサマーキャンプ	50
新潟県	新潟県立新潟商業高等学校	「産業経済やグローバル社会で活躍できるタフなスペシャリストの育成」～英語力の向上、先進的なビジネス教育、国際感覚を磨く意識啓発～	51
富山県	富山県立富山商業高等学校	商業科生徒および教員の海外派遣事業	52
石川県	石川県立金沢商業高等学校	海外（シンガポール）の専門高校（ポリテクニク）との交流を通じたグローバル人材の育成	53
福井県	福井県立福井商業高等学校	国際経済科における、グローバル化人材の育成について	54
長野県	長野県長野商業高等学校	外国語学習に対する動機づけ強化を目指して	55
静岡県	静岡県立静岡商業高等学校	韓国語（ハングル語）講座【課題研究の一講座】	56
愛知県	愛知県立愛知商業高等学校	ESD活動を通じたグローバルに活躍できるビジネスリーダーの育成	57
岐阜県	岐阜県立大垣商業高等学校	企業分析事例研究 「企業分析を通して、グローバルな視点での課題解決型自主学習の在り方を考える」	58
三重県	三重県立宇治山田商業高等学校	グローバル社会で求められる力の育成	59
滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校	国際理解教育・国際交流の推進	60
京都府	京都府商業教育協会 （京都府合同チーム）	京都逸品展「京の食」香港トライアル ～商業科設置校合同チームによる海外販売実習～	61
大阪府	大阪府立大阪ビジネスフロンティア 高等学校	グローバル化をめざした実践教育	62
兵庫県	兵庫県立洲本実業高等学校	グローバルスタディーに向けて	63
奈良県	大和高田市立高田商業高等学校	商業高校における英語基礎力の向上および異文化理解への関心を高めるために	64
和歌山県	和歌山県立神島高等学校	商品開発の取り組み ～梅の魅力を伝えたい～	65
鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校	国際交流活動によるグローバル感覚の育成	66
島根県	島根県立松江商業高等学校	教科の垣根を越え「商業科×英語科」のコラボレーションから可能性を生み出していく試み	67
岡山県	岡山県立岡山南高等学校	国際経済科「総合実践」における英語観光ボランティアガイドの実践	68
広島県	広島市立広島商業高等学校	学校デパート及び海外修学旅行を通じたグローバルな視野の醸成	69
山口県	山口県立防府商工高等学校	外国人による学校訪問の受け入れおよび長期留学生の受け入れ	70
香川県	香川県立三木高等学校	希少糖を世界へ！	71
徳島県	徳島県立徳島商業高等学校	国際支援、国際ビジネスを通じたGLOBAL人材の育成	72
愛媛県	愛媛県立松山商業高等学校	国際交流	73
高知県	高知市立高知商業高等学校	ラオスに学校を贈る国際協力活動	74
福岡県	福岡県立小倉商業高等学校	海外インターンシップ	75
佐賀県	佐賀県立佐賀商業高等学校	グローバルビジネスコース、グローバルITコースの取り組み	76
長崎県	長崎県立佐世保商業高等学校	グローバル化に対応するための商業教育における外国語教育の重要性	77
熊本県	熊本県立球磨中央高等学校	日本や地域の伝統・文化理解およびグローバルな視点の育成	78
大分県	大分県立大分商業高等学校	商業教育を通じ、国際感覚を身につけた能力を養い、世界に羽ばたく人材を育成する	79
宮崎県	宮崎県立都城商業高等学校	課題研究「中国語講座および中国についての研究」	80
鹿児島県	鹿児島県立明桜館高等学校	スパイシーな国際交流ビジネス	81
沖縄県	沖縄県立那覇商業高等学校	海外研修旅行（ロサンゼルス、台湾）を通じたグローバル人材の育成	82

都道府県名	北海道	学校名	北海道札幌東商業高等学校
テーマ	語学力を生かしたホスピタリティマネジメントとコミュニケーション ～北海道の観光関連産業で活躍するグローバル・リーダーの育成～		
<p>1 目的</p> <p>(1) 地域の魅力を発見し、有益な情報を発信する能力を育成する。</p> <p>(2) 地域産業界と連携して、主体的に問題解決を図ることのできる思考力と実践力を育成する。</p> <p>(3) 地域社会の発展を担う人材を育成する。</p> <p>2 内容（平成28年度主な活動）</p> <p>○ 学校内外における大学教授・外部講師による指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際経済科1～3年生が「ホスピタリティ」の基本的な考え方や事例に関して聴講 ・国際経済科1、2年生が北海道地域経済、アジア経済について聴講 ・国際経済科2年生が専門学校において「エアライン学科」及び「ホテル学科」に所属する講師及び在校生による講話及び実習の体験及び百貨店人事担当者による講話を聴講 <p>○ 講演会及び交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流員と留学生及び大学講師等を招き、「国際交流員・留学生との交流授業」を実施。 <p>○ 「日本の次世代リーダー養成塾」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の次世代リーダー養成塾に、国際経済科2年生1名が参加 <p>○ 「北海道青少年中国派遣事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度北海道青少年中国派遣事業に国際経済科3年生1名が参加 <p>○ 「第18回北海道韓国語弁論大会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道韓国語弁論大会に国際経済科2年生1名が出席し、銅賞を受賞した。 <p>○ 翻訳参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベント「あつべつ食の文化祭2016」において、英語・中国語・韓国語のチラシを作成 <p>3 成果と課題</p> <p>成果：授業で学んだことを生かした、キャリアを考える生徒の増加 授業での交流や講演による、諸外国に対する理解の深化 外国語による、思考力・判断力・表現力等の向上</p> <p>課題：事前・事後指導時間の確保とともに、他の科目との連携 検定教科書や教材が無く、自己研修による教材作成の工夫</p>			
育成が期待できる資質・能力	○勤労観・職業観の育成 ○コミュニケーション能力の向上 ○地域・異文化理解の深化 ○情報活用能力（ICT機器を活用能力）の向上		

都道府県名	青森県	学校名	青森県立八戸商業高等学校
テーマ	英語によるコミュニケーション力を備えた人材の育成		
<p>1 目的</p> <p>本校国際経済科の重点目標として、商業における知識・技術の習得、英語によるコミュニケーション能力の向上を掲げている。商業科・情報処理科よりも英語に関する科目を多く履修し、学習を積み重ねる中で、様々な特別授業、講演も行っている。また、販売実習を行うことで商業に関する学習も実践的に行っている。いろいろな取組の中で最も重視していることは、「英語を学ぶ」だけではなく「英語を使って何ができるのか」という点である。そのためにコミュニケーション能力を高めることは必須である。県教委のグローバルスチューデント育成推進事業による外部講師の講演はその目的を見据えた講演の一つである。また、商業におけるグローバル化の進展に対応するため貿易は欠かせない手段の一つである。異国から国内では見られない商品を仕入れ、販売することで多くの可能性も見出すことができる。その基礎的な部分を在学中に学習し、これからの社会に対応できる人材を育てることを目的としている。</p> <p>2 内容</p> <p>海外修学旅行における学校訪問（カフク高校へ訪問、日本文化の紹介）、ホームステイ 海外修学旅行のための特別授業（旅行行程におけるシミュレーション） 郷土民芸品の制作（修学旅行でのホームステイ先への土産物制作） 貿易実務講習会（外部非常勤講師による特別授業） 県教委の仕事力推進事業及びグローバルスチューデント育成推進事業による外部講師の講演（英語を学ぶ意義とコミュニケーションスキルについて） 八商バザーにおける国際経済科展の出店（輸入品仕入、販売） 教育課程に学校設定科目として「貿易ビジネス」「プラクティカルプレゼンテーション」「ビジネス英会話基礎」を編成</p> <p>3 成果と課題</p> <p>海外に出て英語を使いコミュニケーションを取る、貿易のノウハウを生かして輸入品の仕入、販売を行うなど実践の中で学習する環境があることで、適応能力が育成されている。進学先では英語や経済、経営の学習を専攻するなど上級学校への橋渡しがスムーズに行われている。現在学んでいることが基礎となり、就職、進学等で生かされていることはまさしく成果である。</p> <p>しかし、全員がそのような就職、進学先を選択しているわけではない。また、商業高校において主要となる商業科目が手薄になる傾向も見られる。商業、英語のバランスの良いカリキュラムの中で、いかに生徒たちへ学習内容を理解させ、専門的な知識や技術の習得を達成させるかということが大きな課題である。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>外部講師による講演では「英語を学ぶ意義」を理解することができる。学校設定科目「プラクティカルプレゼンテーション」「ビジネス英会話基礎」「貿易ビジネス」では英語で表現しようとする主体性やチャレンジ精神の育成ができる。</p> <p>海外修学旅行、現地学校訪問、ホームステイ、特別授業においても異文化理解、日本文化の理解、英語を介しての主体的なコミュニケーション能力の育成などが期待される。</p>		

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立盛岡商業高等学校
テーマ	岩手県が進める「被災地高校生グローバル商品開発力等促進事業」の紹介		
1 目的	<p>東日本大震災において被災した高校生が、卒業後も生まれ育った地域で、やりがいを持ち生活を支える所得が得られる職に就くため、「三陸防災復興博（仮称）」や「ラグビーワールドカップ 2019™」と連携し、国内外の観光客をターゲットに、三陸地域の地域資源を活用した商品開発や情報発信の手法を学ぶ。</p>		
2 内容（計画）	<p>平成29年度から31年度にかけて、岩手県沿岸地域商業系高等学校4校（宮古商業、釜石商工、大船渡東、久慈東）＋内陸商業単独校2校（盛岡商業、水沢商業）が協同して、三陸沿岸地域の資源を生かし、国内外の観光客をターゲットにしたオリジナル商品開発または地元企業の商品パッケージ、商品説明の改良、情報発信、接客、販売についての実践学習に取り組む。</p> <p>【平成29年度】県地域振興室と県教委学校調整課産業復興教育担当課が主導的に事業の計画、協力企業の募集、商品開発等の授業実施に係る外部専門講師の依頼等を進めている。</p> <p>【平成30年度】上記6校の生徒を対象に楽天IT学校方式で商品開発等の授業を行うとともに、内陸でのチャレンジショップでのテスト販売を通して、域外からの観光客への商品説明、情報発信方法等を学ぶ。さらに、「三陸防災復興博（仮称）」や「ラグビーワールドカップ 2019™」での開発商品並びに地域の商品を販売することを目的に、英語での商品説明（POP作成、接客、HP等での情報発信）にチャレンジし、岩手県国際交流協会と連携し、県内在住の外国人が参集する機会「ワンワールドフェスタ in いわて」等での販売を行い、商品改良、商品説明の改善等に取り組む。</p> <p>【平成31年度】「三陸防災復興博（仮称）」、「ラグビーワールドカップ 2019™」において実際に高校生が三陸鉄道の駅に設置される「エキカフェ」等の場で販売を行う。また、販売促進のため、三陸防災復興博（仮称）実行委員会と連携し、事前より商品等に関連する地域情報を発信し三陸への誘客を図る。さらに期間中の高校生同士の情報交換による商品説明や情報発信方法の検討を行い、終了後にはその効果について検証する。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<p>① 地域資源、地元企業の商品を知り、地域創生の担い手としての基礎的知識を得る。</p> <p>② 実際の企業と連携し、マーケティング力、商品開発力、情報発信力を実践的に学ぶ。</p> <p>③ 外国人観光客をもターゲットにすることによって、グローバルな視点と英語によるコミュニケーション能力が身につく。</p> <p>④ 商業高校生が三陸復興に協力して取り組むことによって、課題解決に向けて協働する力や創造的な思考力・表現力等、商業による社会貢献への資質・能力が養われる。</p>		

都道府県名	宮城県	学校名	宮城県一迫商業高等学校
テーマ	『栗原版デュアルシステム』の実践		
<p>1 目的</p> <p>本校は、平成17年度から三年間文部科学省より指定を受け、『栗原版デュアルシステム』を実施し、指定が終了した現在も継続して取り組んでいる。本取り組みは、1年次から3年次までの学習計画に基づき、体系的・継続的なキャリア教育を実践することによって、生徒がより具体的な職業観や勤労観を育み、自己の進路実現を主体的に行うための能力を養うことをねらいとしている。</p> <p>2 内容</p> <p>1年次は「見る・聴く」、2年次は「知る・触れる」、3年次は「身につける」ことを基本とし、取り組みを通して社会との関わり方を実学的に学び、地域社会の一員としての意識を高めている。主な実践内容であるが、2学年では、インターンシップを「総合的な学習の時間」を活用して、9月に3日間実施している。3学年では、科目「課題研究」において起業家研究班と販売実習班に分かれ活動をしている。起業家研究班はアントレプレナーシップを採用し、地元企業から頂いたミッションに対し課題解決型提案を行う。ミッションが商品開発のケースもあり、平成17年度開発商品である「米ていら（米粉のカステラ）」は「みやぎものづくり大賞」においてグランプリを受賞した。販売実習班は、チャレンジショップをはじめ、多くの地域イベントに参加し、マーケティングや接客マナーを学習し、コミュニケーション能力の育成を図っている。さらに、学校設定科目「企業実習」においては、地域企業の御協力を頂き約20日間の長期インターンシップを行い、望ましい職業観や勤労観を育成している。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>生徒が地域の中で実習することで、地域の方々とのコミュニケーションが図られるとともに、学校と地域との連携が構築されてきた。また、生徒自身が、自分の将来をしっかりと考え、進路設計することができる力を育み、社会人として自立する為の基礎となる力を培っている。さらに、授業に協力していただく皆様への感謝の気持ちを持つことも、成果のひとつであると感じている。</p> <p>しかし、取り組みに課題が無いわけではない。担当可能な教員の育成といった内部的な課題がある。また、本年度は県の事業から予算立てしているが、恒常的な予算の確保といった活動の根幹に関わる課題も抱えている。今後の方向性としては、このような課題を抱えながらも、『栗原版デュアルシステム』として継続して実施し、さらに発展させていきたいと考えている。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ○起業家精神の育成 ○職業観や勤労観の醸成 ○コミュニケーション能力の育成 ○地域理解と郷土愛の涵養 		

都道府県名	秋田県	学校名	秋田県立能代松陽高等学校
テーマ	グローバルな視野で未来を切り拓く力を持つ人間の育成		
<p>1 目的</p> <p>○国際交流、異文化理解 ホームステイをしながら米国高校生との交流や語学研修の機会を持ち、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。また、他国の文化や習慣を学ぶとともに自国の文化を伝えるなど、異文化交流も図る。</p> <p>○第2外国語指導（学校設定科目として、韓国語・中国語・ロシア語を設定） 各外国語を使ってコミュニケーションをとるために必要とされる基本的な能力を身に付ける。また、各国語の学習を通してその国の文化や歴史に触れることにより、国際的な視野を広げる。</p> <p>2 内容</p> <p>○国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国イリノイ州 Oak Park and River Forest High School との語学研修交流 平成25年から交流を始め、隔年で交流している。本校からは生徒約25人が1月下旬から約3週間ホームステイしながら業を受けたり、学校行事に参加したりする。一方 OPR 校からは毎年6月下旬から約1ヶ月本校の授業を受けたり、学校行事に参加したりした。なお OPR 校とは平成27年に姉妹校提携を結んでいる。 ・平成26年にロシアの音楽アンサンブル『ヴィシエンカ』の訪問を受け、ステージ発表と、本校の空手部・書道部のパフォーマンスの鑑賞を通して、日本とロシアの文化の違いを体験した。また平成28年度には秋田県の「ロシア青少年交流事業」に6名が参加し、ホームステイしながら1週間の日程でウラジオストクの高校の授業に参加したり、文化交流したりした。 ・平成25年度「日韓高校生交流（派遣）事業」に2名が参加して以降、平成26年を除き毎年参加している。 <p>○第2外国語指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語 韓国語の文字であるハングルを学ぶことから始め、簡単でかつよく使われる基本的な文を覚えて会話をする。また、韓国語による基本的なコミュニケーションを可能にするためのさまざまな文について学ぶ。さらに、教科書内のコラムなどを通して韓国の文化や歴史について学ぶ。 ・中国語（中国人の講師が指導） 前半は中国語の発音を中心に学習し、少しずつ語彙を増やす。後半は簡単な会話を通して基本的な文法を学習する。さらに、授業の中で中国の文化や歴史について学ぶ。 ・ロシア語（ロシア人の講師が指導） ロシア語のアルファベットを学ぶことから始め、簡単でかつよく使われる基本的な文を覚えて会話をする。また、ロシア語による基本的なコミュニケーションを可能にするためのさまざまな文について学ぶ。さらに、ロシアの文化や歴史について理解を深める。 <p>3 成果と課題</p> <p>○国際交流、異文化理解</p> <p>①受け入れは、大きな事故も無くほぼ予定通りに実施できた。留学生との接し方に問題があるものも見られたが、生徒同士の交流はおおむね良好であったと思われる。在校生に対する事前指導を工夫する必要があると感じた。</p> <p>○第2外国語指導</p> <p>①外国語イコール英語圏という枠組みを超えて、視野を広げることができた。</p> <p>②第2外国語を学んだことを生かし、卒業後も第2外国語を学ぶといった進路選択をする生徒が出て、進路選択が広がった。</p> <p>③学んだことを直接生かせる機会がないので、使用場面を設定するのに工夫が必要になる。</p>			
育成が期待できる資質・能力	グローバルな視野で未来を切り拓く力		

都道府県名	山形県	学校名	山形市立商業高等学校
テーマ	プレゼンテーション～自主性とコミュニケーション能力を育成する～		
<p>1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力（情報の収集、分析、IT活用、話術など）を身につける。 ・プレゼンテーションソフトを活用した資料作成能力を育てる。 ・情報の収集から解決までの課題解決能力を育てる。 <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント操作方法 ・課題解決型学習による個人作品製作と発表 ・課題解決型学習によるグループ作品製作と発表 <p>3 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生国際コミュニケーション学科の学校設定科目として行っている。最初にパワーポイントソフトの操作方法を説明し、その後は課題を与えての調べ学習。その成果を披露する発表会を行っている。年々発表のレベルは向上し、授業時間以外でも自主的に居残り学習する生徒が多い。特にグループでの発表は、生徒商業研究発表大会に匹敵するような内容となっている。 <p>課題として、指導できる教員が少なく、授業内容も担当教員の工夫に頼っているところが大いことから、指導できる教員の養成が課題となっている。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>コミュニケーション能力の育成</p> <p>主体性やチャレンジ精神の育成</p> <p>情報通信技術の活用</p>		

都道府県名	福島県	学校名	福島県立猪苗代高等学校
テーマ	国際交流（ガーナ、台湾の2か国）		
<p>1 目的</p> <p>①猪苗代の特性を活かした幅広い交流を行うことによって、言語や生活・習慣等の相違を越えた心と心の触れ合いを体験し、国際社会に貢献する豊かな人間形成を行う。</p> <p>②異文化理解と認識を深め、自らの生活や地域社会・文化の再構築を図る。</p> <p>③友好親善と相互理解を推進させ、地域の産業・経済の活性化につなげる。</p> <p>2 内容</p> <p>① ガーナ高校生交流プログラム（平成29年8月31日終日、9月3日さよならパーティ） 3年に1度の実施、今回で4回目。猪苗代が野口英世の生誕の地であることから、ガーナよさこい支援会からの依頼。歓迎式典、フリースロー対決、グループワーク、茶道・書道体験、おにぎり調理体験、レクリエーション（折り紙・こま・竹とんぼ）、猪苗代クイズ大会、フェアウェルセレモニー等。交流の経費は、約4万円（ガーナよさこい支援会負担）。</p> <p>② 台湾高校生訪問（平成29年5月29日13:30～16:30） 県の国際交流協会からの依頼。歓迎式典、交流会（自己紹介・フリースロー対決・プレゼント交換）、日本文化体験（折り紙・あかべこ製作）、観光ビジネス科紹介（猪苗代の魅力）、グループワーク、フェアウェルセレモニー等。交流の経費は、約6万円（県の交流協会負担）。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>① 成果 「異文化理解と認識を深め、自らの生活や地域社会・文化の再構築を図る」という目的に対しては、共通の言語が英語であったため、英語学習の重要性を強く感じたようである。しかし、スマートフォンや携帯電話を駆使し、可能な限りコミュニケーションを取っていたようである。また、写真を撮ったり、メールアドレスを交換したりしていた。ガーナの高校生も台湾の高校生も非常に積極的で、消極的な本校生にとってカルチャーショックであったようである。そのような点からも貴重な体験であった。さらに、台湾の高校生には、猪苗代の自然やアクティビティなどの猪苗代の魅力をPRするよい機会となり、将来のインバウンドにつながると考える。</p> <p>② 課題 ガーナのように一年以上前から準備できるものは、比較的容易にできるが、台湾のようなイレギュラー交流については、準備期間が取れない。また、予算についても限られており、十分な内容とはならない。イレギュラーな交流については、事前にテンプレートを準備したい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	国際交流を通して、多くの経験・体験を積むことで、五感が磨かれ感性や創造性が豊かになると思う。また、交流をやり遂げた達成感が、チャレンジ精神やコミュニケーション能力向上、多様性を受容することにつながると考える。		

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立那珂湊高等学校
-------	-----	-----	-------------

テーマ	「創造力・企画力・説明力」をもった国際的人材の育成
-----	---------------------------

1 目的

商品開発でコラボしている企業等や地元ひたちなか市と連携して地域貢献活動を行うことによって、生徒がその活動から直に疑問や課題を感じ取り、生徒自らが解決策等を考え創造力・企画力・説明力を身に付け、将来地元地域で活躍できる人材育成を目的とする。

2 内容

台湾の観光物産博・商談会に地元ひたちなか市と連携したブースで情報を発信。

中国語「你好」「俾你」「多謝」と広東語を使い授業で「地元の魅力／好きなこと」地元(ひたちなか・茨城)の魅力や観光スポットなどを発信することができました。

また、BtoBでの企業連携による開発商品のPR、学校キャラクター「みなとちゃん」による地元PRなど、ステージで、子どもたちの無限大の創造力を海外に発信することができました。



3 成果と課題

生徒たちの世界が広がったことはもちろんですが、いろいろな事への気づきが随所に見られました。言葉の大切さ、生活習慣の違い、また、考え方の違いを体験したことはよかったですと思います。商談会では、世界基準のビジネス的な思考がいかに日本のそれと違うかを実感することができました。ひたちなか市と連携し、地元の魅力を海外に発信することを続け、また、国内にも目を向けて発信することの大切さを学んでいきたい。

育成が期待できる資質・能力	生徒自らが意見をしっかり持ち、説明することができる力が育成できることに加え、創造力・企画力・説明力をもった生徒一人一人の主体的な学びによる新しい学校の特色づくり 「みらいの那珂湊高校創造プラン」の実践により、地域からの期待を大きいものにできる。
---------------	---

都道府県名	栃木県	学校名	栃木県立宇都宮商業高等学校
テーマ	商業教育におけるグローバル化人材の育成		
1 目的	<p>人と人とのつながりを地域や大学、企業とに求めて、数々の連携事業を企画 様々な連携事業を通して、人材育成や生徒と教員の活動の場を広げることを目的にした</p>		
2 内容	<p>グローバル化に対応できる人材の育成のために、地元の数多くの大学や企業と連携協定を結んだことにより、人材の育成や進路実現に数多くの利点が生まれた。</p> <p>大学とは、進路実現のための様々な体験や講座を受けることができた。地元銀行企業とは、FPの資格取得やグローバル化に対応できる人材についてのアドバイスを受けた。また、企業が求める人材についてのアドバイスを受けた。</p> <p>地元ロータリー組織の青年組織インターアクト活動に参加するようにインターアクト部を立ち上げた。結果、フランスに交換留学生として商業科の女子生徒が留学した。台湾の国立高級家事商業学校が来日し、交流会を開催し、同校と姉妹校の締結をした。</p> <p>県の事業の起業家育成事業やジュニアキャリアアドバイザー事業などにも積極的に参加し、外との交流を深める機会を創り出した。</p>		
3 成果と課題	<p>一つ一つの高校で、グローバル化に対応できる行事や企画をすることは、人材的にも費用的にも困難である。国や県がある程度の費用負担をし、様々な制度改革をしていかねばグローバル化に対応するどころか足下すら揺るぎかねないのが現状である。つまり、日常的な学校生活の中から、グローバル化に対応した諸行事などを生み出していくので、費用負担、人材育成どれをとっても学校には大きな負担である。公立高校には、限られた中での取り組みしかできないのが現状である。</p> <p>しかし、異業種の人達や地域、他国の人達と交流することにより視野が広くなり、活動が積極的になるような事も見られた。結果的に人間的な成長を果たすことに繋がるといえる。</p> <p>今後は、毎日の授業とその成果とグローバル化の諸事業の兼ね合いが各高校の運営者にとって難しい判断になる。</p>		
育成が期待できる資質・能力	コミュニケーション能力、主体性や起業家精神などのチャレンジ精神の育成、広い視野		

都道府県名	群馬県	学校名	太田市立太田高等学校
テーマ	市立太田「グローバル人材育成プログラム」実践事例		
<p>1 目的</p> <p>群馬県太田市は工業都市であり、株式会社SUBARUを中心とする自動車関連産業が盛んである。これらの企業は、販売拠点や技術開発拠点を海外にも展開させており、グローバルな視野をもつ人材の確保が課題となっている。</p> <p>本校は市立高校であり、地域のリーダーとして活躍できる人材を育成・輩出することが求められている。商業科の卒業生は、地元就職する者も多く、就職したのち数年で海外勤務を打診される者も少なくない。また、太田市及び隣接する大泉町で働く外国人労働者の数も多い。そのような環境で、生徒たちが主体的かつ能動的に社会で活躍できるようになることを目的に「グローバル人材育成プログラム」を実施している。様々な企画を用意し、生徒たちが真のコミュニケーション能力を身につけたグローバル人材となれることを目指して取り組んでいる。</p> <p>2 内容</p> <p>「グローバル人材育成プログラム」は、①地元企業を知る②大学を知る③グローバルキャリアトレーニング④郷土愛育成⑤Uターン支援の5つの柱で構成され、その柱の中で様々なプログラムが実施されている。詳細は次のとおりである。</p> <p>①地元企業を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ ・グローバル企業講演会 ・地元企業見学・地元企業説明会 ・海外企業見学（アメリカ海外研修） <p>②大学を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学講師出前事業（高大連携） ・県内大学訪問 ・PTA大学見学 ・大学講師による教職員研修会 ・県外大学訪問 ・大学生サポーター派遣事業（高大連携） <p>③グローバルキャリアトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百貨市 ・ホスピタリティ講座 ・ブリティッシュヒルズ宿泊研修 ・アメリカ海外研修 <p>④郷土愛育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太田の歴史にふれる旅 ・「ねぶた祭り」に出陣 ・地元イベントへの出店 <p>⑤Uターン支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリによる卒業後の就職支援 <p>これらのプログラムは、学年や学科（商業科・中高一貫の普通科）、個々の興味・関心に応じて実施している。今年度は、商業科の1年生全員でブリティッシュヒルズ宿泊研修を実施することにした。また、平成30年度入学生からは商業科における外国語の単位数を増やし、グローバルキャリアトレーニングの成果を上げることを期待している。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>様々なプログラムを通して、地元理解や地元の再発見、地元愛を育成することができたと感じる。また、大学見学、企業講演会、高大連携事業などで大学や企業をより身近に知ることにより、進路目標が明確になったとも感じる。アメリカ海外研修やブリティッシュヒルズ宿泊研修に参加した生徒には、意識の変化が顕著に見え、その後の学校生活にもより前向きに取り組み、他の生徒にも良い影響を与えている。</p> <p>課題は、様々なプログラムを実施するにあたっての費用面である。現在は、国の「地方創生」や太田市から予算の支援を受けて保護者負担の一部を軽減しているが、予算支援の期限は限られている。今後、支援がなくなっても継続できる事業のあり方や運営の工夫が必要となる。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>真のコミュニケーション能力（積極性、主体性、チャレンジ精神）、</p> <p>人間力（ホスピタリティ能力、他者を理解し受信する力、他者と協働する力）、地元理解、地元愛等</p>		

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校
テーマ	海外連携「新食料品類（お菓子など）の開発」		
<p>1 目的</p> <p>専門高校等の生徒が、学校や学科の枠を超えて商品開発チームを組織し、連携・協働するとともに、海外の高校や企業等とも連携を図り、新たな商品を企画、開発して商品化につなげるなど、新商品の開発を通して、創造力と行動力を持った人材を育成する。</p> <p>2 内容</p> <p>埼玉県教育委員会が平成28年度に実施する「実践的職業教育グローバル事業」の推進校として本校が指定を受け、県内の鴻巣女子高校、川越工業高校、川越総合高校とともに台湾に派遣された。12月の台湾における商品販売に向けて6月から4校が集まり商品開発を進め、試作、試食を繰り返し、販売促進の検討を行った。完成したスナック菓子はマーボー風味の揚げパスタで「ピポリパ（ピリット・ポリット・ピリポリパスタ）」とキャッチフレーズとともにネーミングした。商品化には県内の企業である三州製菓（株）の協力を得た。台湾で連携する専門高校の台北市立松山高級工農職業学校とは、派遣前の研修でスカイプを用いた交流を生徒同士が行った。商品開発チームの各校3名の代表が5日間台湾を訪れ、交流と商品販売を実施した。帰国後は開発した商品をイオンレイクタウンで国内販売した。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>台湾での販売に向けた国内企業や現地校との連携を通して、商品の開発にあたっては消費者のニーズをよく理解して行う必要があること、パッケージのデザインや商品名などが販売促進にとっても重要であること、今まで何気なく購入していた商品も企業でいろいろ研究していること、に生徒は気付いた。また、自分たちのアイデアが採用されるようにアピールを行いそれが実現した時の嬉しさや、実際に自分たちが開発した商品をお客さんに買っていただいたときの感謝の気持ち、といった実体験ができた。</p> <p>一方、商品の案を決定するまでに時間を要した。これは、当初考えていた案があったが、後から海外での販売ということで様々な制限があることが分かり、検討しなおすことになったためである。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>国内協力校との事前準備・役割分担で育成される協調性・責任感、中国語及び英語の語学や台湾の風土を学習して得られるグローバルな視点が資質として備わる。また、商品開発や販売促進の過程で発生する困難を乗り越える忍耐力・課題解決能力、他者の意見を聞いた上で自己の意見をアピールする表現力といった能力の育成が期待できる。</p>		



都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立一宮商業高等学校
テーマ	地域に誇りを持てるグローバル人材の育成		
1 目的	<p>本校所在地は、2020年東京オリンピックのサーフィン競技の会場地となったことから海外からの旅行者が今後増加すると思われる。</p> <p>このため、町も観光物産センター・観光案内所を新たに作り、国内ばかりでなく海外からの旅行者への対応を視野に入れ始めた。ついで、町にある唯一の高校として町と協力し海外からの来訪者にもおもてなしの心で対応できるグローバル人材の育成に取り組む。</p>		
2 内容	<p>生徒に地域を理解させ、地域に誇りを持つ「シビックプライド」を持たせ、地域で活躍できるとともに海外からの来訪者を視野に入れたビジネスを展開する人材を育成するために次のような活動を行っている。</p> <p>①ビジネス研究部</p> <p>2020年東京オリンピック開催までにお土産品を開発し、地元一宮町の定番品となる商品開発。</p> <p>②一商COLORS</p> <p>生徒による模擬広告代理店において、地域の商店等のHPデザインやチラシ等を無料で作成し、顧客が笑顔になれる活動を実施。今後は、海外からでも一宮町を調べられるようにグローバルな視点でHPを作成し、地域の情報発信を町等と共に行う。</p> <p>③観光物産センター・観光案内所におけるボランティア体験（平成30年5月以降）</p> <p>土日祝日を活用し、本校生徒が来訪された人たちとの交流を通して、コミュニケーション能力などを育成するとともに、将来的には地域の観光案内ができるまでに育成する。</p> <p>④地域イベントへの参加</p> <p>現在は地域のイベント等に参加する形で協力しているが、今後は企画や運営等も体験できるようにして、企画力や運営力を身に付けるとともに集団の中での調整力も育成する。</p>		
3 成果と課題	<p>①地域の観光等や世界最大のスポーツイベントに関わることで「グローバル意識」「企画力・運営力・調整力」「コミュニケーション能力」「英会話」等に成果が現れる。</p> <p>②2020年東京オリンピックを中心に今後活動を行うが、組織委員会と県と町とのすみわけ等がはっきりしないため、本校の活動にも影響が出ると思われる。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<p>より広い視野で物事を考える等のグローバル意識</p> <p>イベント等の企画力・運営力・調整力・コミュニケーション能力</p>		

都道府県名	山梨県	学校名	甲府市立甲府商業高等学校
テーマ	海外語学研修		
<p>1 目的</p> <p>オーストラリアでの学習体験やホームステイなどの生活体験を通して、文化や国民性を学ぶとともに、視野を広げ、コミュニケーション能力を向上させ、異文化の理解を深める。</p> <p>2 内容（平成 29 年度予定）</p> <p>(1)目的 地 オーストラリア シドニー 語学研修校「カプラン・インターナショナルカレッジ・マンリー校」</p> <p>(2)期 間 平成 30 年 3 月 10 日(土)～3 月 20 日(火)の 10 泊 11 日</p> <p>(3)研修内容 平日は午前中が英語研修、午後は現地高校訪問が基本 土日はホストファミリーと一緒に過ごす</p> <p>(4)参加生徒数 1・2 年生希望者 17 名（予定）</p> <p>(5)引率教員 2 名</p> <p>(6)事前指導 保護者生徒合同研修会（2 回）、生徒事前研修会（7 回）</p> <p>(7)事後指導 感想文集作成、e メール等による交流継続</p> <p>3 成果と課題（平成 27 年度）</p> <p>(1)成果 ・英語に対する抵抗がなくなり、外国語に対する自主的な学習意欲が伺えるようになった。 ・幅広い視野で物事が見られるようになった。 ・自ら考え、主体的に行動することに自信を持てるようになった。</p> <p>(2)課題 ・費用面の問題で、多数生徒の参加が実現できず、隔年実施になってしまったことで、参加の機会が在学中 1 回のみとなってしまった。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力、コミュニケーション能力の向上 ・主体性、行動力、課題解決力 ・広い識見 		

都道府県名	東京都	学校名	東京都商業教育研究会
テーマ	English Business-Plan Contest の開催		
<p>1 目的</p> <p>都教育委員会が策定した「都立高校改革推進計画・新実施計画」に基づき、グローバル化社会に求められる人材を育成するため、東京都協業教育研究会主催のコンテストを実施し、各学校に語学力の向上、国際理解教育の推進、日本の伝統文化教育の充実などを啓発するとともに、取り組んだ生徒の学習成果発表の機会とする。</p> <p>2 内容</p> <p><テーマ設定></p> <p>平成29年度のテーマは「日本の伝統技術を活用した商品（サービスを含む）を欧州地域に売り込む」である。なお、テーマの詳細説明としてとして①我が国の伝統技術を活用した商品であること、②新規の商品開発、既存商品の組み合わせ、販売方法の工夫、ターゲット層の変更等、実在のビジネスとの差異を含むこと、③欧州地域に売ること（欧州地域在住の外国人を日本に呼び込んで国内で販売することも可）、④伝統技術の地域は問わないことを挙げている。</p> <p><審査資料の提出></p> <p>審査資料として「ビジネスプランシート(英文表記)」の提出を課し、審査の補助資料とする。なお、発表時の質疑応答でビジネスプランシートに記載された内容から質問されることもある。</p> <p><審査方法></p> <p>発表にかかわる言語はすべて英語であり、進行係が行うアナウンスもすべて英語による。プレゼン発表の時間は8分、審査員からの質問は必ず行う。発表及び準備・片づけ・審査員との質疑を含めて概ね10分程度である。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>成果としては、コンテストに参加する生徒が様々なことを調べ学習し、国際理解教育の推進、日本の伝統文化教育の充実などにつながったこと。課題としては、生徒の語学力が発表内容の差につながってしまい、プランの内容よりも英語力が高い（審査員と英語で対話ができる）方が良い審査結果になっていることが挙げられる。コンテストの回数を重ねることで全体の底上げを図りたい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・語学力の向上 ・国際理解教育の推進 ・日本の伝統文化教育の充実など 		

都道府県名	神奈川県	学校名	神奈川県立厚木商業高等学校
テーマ	イングリッシュサマーキャンプ		
1 目的	<p>県立の商業を学ぶ生徒に対し、実践的・体験的な英語学習を通して、日常英会話能力の向上を図るとともに、在日留学生との交流を通して、今後の学習への興味・関心および意欲の喚起と異文化理解を図る。</p>		
2 内容	<p>【ビデオメイキング】 主な活動は、与えられたテーマに基づいて、グループごとにビデオ製作を行い、発表会を行う。テーマは、物語やアニメの一場面を取り上げてその続きのスキットを作ったり、ある品物（バッグや箸など）のコマーシャルを作ったり、テーマソング（洋楽）の歌詞の解釈をしてミュージックビデオを作成するなど、その年毎にさまざまなものが設定されている。完成したらビデオ発表会を行い、全員で作品を鑑賞し、表彰を行う。</p> <p>【ショートスピーチ】 サマーキャンプ中の3日間で、ショートスピーチを書き上げ、発表する。まずは、スピーチのトピックを決め、スピーチの書き方を学び、スピーチ原稿を完成させたら、暗記して発表できるよう練習する。最終日には、グループごとに発表する。</p> <p>【その他】 自己紹介活動や相互理解活動、体を動かしながらのゲームの中で英語を活用する活動など、いろいろなタイプの活動を通して英語に触れ、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>		
3 成果と課題	<p>このキャンプを通して英語に対する関心を深め、その後、英語スピーチコンテストに参加したり、大学進学を目指すなど、英語学習の動機付けという位置づけとしての成果が上がっており、実際に英語の教員になった卒業生もいる。</p> <p>課題としては、英語に対して苦手意識を持っている生徒が多い商業高校で、参加者を増やし、英語への関心を高めるかということが挙げられる。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<p>コミュニケーション能力（英語、日本語ともに） プレゼンテーション能力 英語に対する学習意欲 協同して活動する力</p>		

都道府県名	新潟県	学校名	新潟県立新潟商業高等学校
テーマ	「産業経済やグローバル社会で活躍できるタフなスペシャリストの育成」 ～英語力の向上、先進的なビジネス教育、国際感覚を磨く意識啓発～		
<p>1 目的</p> <p>国際社会に貢献しうる国際感覚や語学力、ビジネスの 世界で将来活躍できる力の習得。</p> <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究で中国語、ハングル講座の開設。 ・英語検定（全商、実用）上位級取得への取り組み。 ・「国際教養科」による海外研修、語学研修。また、海外留学生引受による国際交流と異文化理解の促進。 ・新潟県商業教育研究会主催による高校生海外研修事業の実施。 ・3年次総合実践での模擬株式会社の経営。文化祭における1，2年次の地元企業と連携による販売活動を通じた主体性や積極性の育成。 ・チャレンジショップ（文化祭における地元企業とのコラボ）の運営によるコミュニケーション能力、チャレンジ精神の育成。 <p>3 成果と課題</p> <p>（成果）</p> <p>今年度、1，2年生では、はじめての取り組みであった「チャレンジショップ」は、地元商店や近隣企業との連携による販売活動を通じて生徒にとって有意義な活動となった。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材育成について、職員全体での共通認識されていないように思われる。 ・グローバル化対応のために、英語など外国語によるコミュニケーション能力育成に向けた取り組みの充実が課題となる。また、大学入試改革への対応を含めてグローバル化人材の育成。 			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会や各種団体との連携強化による諸活動を通じて、地域の歴史や文化を理解・継承・発展させ、さらに国際交流ができる人材育成。 		

都道府県名	富山県	学校名	富山県立富山商業高等学校
テーマ	商業科生徒および教員の海外派遣事業		
<p>1 目的</p> <p>(1) 商業科で学ぶ生徒に、諸外国の文化・生活習慣・産業などに触れ、見聞を広める機会を与え、国際的感覚を身につけた商業人の育成をはかる。</p> <p>(2) 海外の経済事情について理解を深めさせる。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 派遣先 シンガポール</p> <p>(2) 派遣期間 12月9日(土)～14日(木)までの間の6日間</p> <p>(3) 派遣人員 生徒12名 教員3名</p> <p>(4) 研修内容</p> <p>① 日系企業の工場見学や商業施設の見学</p> <p>② 自然、文化財および行政施設等の見学</p> <p>3 成果と課題</p> <p>(1) 事前研修の必要性</p> <p>海外研修の事前学習を2回開催し、図書館やインターネット等でシンガポールの文化・歴史など多くのことを調査研究させている。このことがたいへん重要であり、興味関心を持たせる役割として大きい。</p> <p>(2) 現地研修でしか得られないこと</p> <p>事後研修会では、若い豊かな感受性を持った高校生が教科書やテレビなどの情報だけでは得られない体験、研修を通して感じたり考えたりしたことを、さまざまな視点から率直に述べている。</p> <p>(3) アジアの経済を支える日本人の活躍</p> <p>企業研修では、立山科学とヤクルトを訪問。海外進出企業として、食文化や生活習慣が大きく違う異国での緻密なマーケティング活動の様子から、グローバル経済の一端を発見することができた。</p> <p>以上から、研修に参加した生徒は、グローバルな視点を持ち今後の高校生活を送ってくれることを期待している。派遣団員が少人数であるので、今後はもっと派遣団員を増やし各学校でリーダーシップを発揮できる生徒を育成したい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>グローバルな視点を持った生徒の育成</p> <p>リーダーシップを発揮できる生徒の育成</p> <p>世界に目を向けながらも、アジアの経済に興味・関心を持つことのできる生徒の育成</p>		

都道府県名	石川県	学校名	石川県立金沢商業高等学校
テーマ	海外（シンガポール）の専門高校（ポリテクニク）との交流を通じたグローバル人材の育成		
1 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の専門高校と交流を行うことにより、専門教育の視点でグローバル人材の育成を行う。 ・異文化を理解し、異なる商慣習の中でのビジネスを考える。 ・英語を基盤としたビジネスに関するコミュニケーション能力の育成を行う。 		
2 内容	<p>本校では、平成26年度より文部科学省から「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の指定を受け、「グローバル観光人材の育成」をメインテーマとした研究を3年間行ってきた。研究事業は、シンガポールの総合的な専門高校であるテマセクポリテクニク校と本校の生徒が相互に学校を訪れる形で交流を行っており、国の指定終了後も交流が続いている。</p> <p>これまでの交流は、「観光」を基調とするものであったが、今後は、国際会計や情報処理、商品開発等の商業教育全般を通して交流を深めていきたいと考えている。</p> <p>○平成29年度の活動</p> <p>(1) 9月26日～10月2日 テマセクポリテクニクの生徒38名が本校を訪れ、商品開発の授業への参加や茶道などの異文化体験を行う。本校生による兼六園ガイドやホームステイも併せて実施。</p> <p>(2) 10月23日～11月7日 本校生徒（希望者15名）がシンガポールを訪れ、ポリテクニクの授業の受講や本県の観光資源の紹介、今年の開発商品のテストマーケティング等の活動を行う。</p>		
3 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・成果 海外を実体験することにより、外国語の学習や異文化理解の重要性が切実なものとなる。同じ専門教育を学ぶ高校生が国際交流を行うことにより、専門分野における視野が広がる。 ・課題 商業の教員には語学の壁があり、相手校との交渉も含め、行いたいことをうまく実現できない。逆に外国語の教員には商業に関する専門的な知識がないため、交流を深められない。 		
育成が期待できる資質・能力	<p>○ ビジネスに関する専門的な知識を有するグローバルな人材の育成が期待できる。</p> <p>シンガポールの教育は、質、量ともに日本より進んでおり、専門教育分野でも新しい形の教育（21世紀型スキル）が定着してきている。今後、交流を深めて行けば、グローバルな感覚と知識の活用を持った人材の育成が行えると確信している。</p>		

都道府県名	福井県	学校名	福井県立福井商業高等学校
テーマ	国際経済科における、グローバル化人材の育成について		
<p>1 目的</p> <p>英語を使った高度なコミュニケーション力を身につけさせ、将来そのスキルを使って実社会で活躍する人材を育成する。</p> <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「使える英語」を身につけさせるため、ヒアリングとスピーキングのスキルを鍛え上げ、人前でも臆することなく各種プレゼンテーションに取り組んでいる。 ・学年を超えた、国際経済科の縦のつながりが強く、先輩が励んでいる姿勢が後輩へ受け継がれている。 ・年間を通じて、ワールドユースミーティング、ウインターセミナー、ASEP、国際交流発表会など多くの行事やコンテストに参加しており、そのこと自体が生徒の楽しみにもなっているので、大変活気がある学科となっており、福商の中心的な学科の一つである。 ・外国留学を実施している。2年次の夏休みに、国際経済科全員が3週間オーストラリアで短期語留学を実施している。また希望者のみではあるが、2年次夏休みから1年間の長期留学をする生徒もおり、今年度は2名が長期留学をしている。 <p>3 成果と課題</p> <p>ほぼすべての生徒が進学しており、難関とされている国公立大学や私立大学へも継続的に進学している。</p> <p>身につけたプレゼンテーションの力は、授業だけでなく学校祭などの活動においても、意見を出したり調整したりするときに発揮されており、リーダーシップを発揮している。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をしっかり相手に伝える力。 ・相手の意見を、しっかり受け取る力。 ・粘り強く話し合い、異なる意見を持つ相手と妥協点を見いだす力。 ・ものごとを多面的にとらえ、柔軟な発想を生み出す力。 		

都道府県名	長野県	学校名	長野県長野商業高等学校
テーマ	外国語学習に対する動機づけ強化を目指して		
1 目的	<p>本校会計科は、平成13年度に開設された比較的新しい小学科であります。</p> <p>会計科では「簿記・会計に重点を置いて学習し、検定上位級の取得を目指すとともに、英語学習にも力を入れ、国際人として語学力を高め4年制大学等への進路実現を目指す」としています。</p>		
2 内容	<p>会計科の目標実現に向けて、外国語(英語)に対する生徒の学習意欲を喚起するため、以下の諸事業を実施しています。</p> <p>①1学年会計科の生徒は、12月に2泊3日の日程で、福島県にありますブリティッシュヒルズという英語研修施設にクラス全員で行きます。現地では3日間すべて日本語の使用が禁止されています。帰校後は参加した生徒の表情が違うように感じられます。</p> <p>②2学年会計科の生徒は、12月に長野市内にあります清泉女学院大学に行って、1日大学の先生方から英語に関する講義を受けています。また、昼食は大学の学生食堂を利用させて頂き、大学生気分を味わっています。</p> <p>③今年度は2年次の修学旅行先を台湾に選定して、本校としては初めとなります海外修学旅行を12月12日(火)から15日(金)までの3泊4日の日程で実施します。事前準備として7月に長野県観光部国際観光推進室の方を講師にお招きし、事前学習会を実施しました。また、生徒自身による修学旅行通信を定期的に発行して、台湾の風土や文化に関する理解を深める努力をしています。</p>		
3 成果と課題	<p>本年度、2学年会計科の男子生徒が地元新聞社関係の団体が主催する米国派遣学生記者事業に応募し、413人の応募者から中学生10名・高校生10名の1人として選ばれ、7月31日(月)から8月6日(日)までの1週間、ワシントンやニューヨーク等を訪問し記事を作成掲載するなど国際交流事業に積極的に参加してきました。課題としては、会計科のみならず商業科生徒にも対象を拡げて参加できる体制づくりを進めていくことであると感じています。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語学習に対する動機づけを促進する。 ・外国の風土や文化に対する興味・関心を喚起し理解を深める。 ・外国人も含めた他者とのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育てる。 ・商業高校生の視点から海外のビジネス事情に関心を持つ。 		


都道府県名	静岡県	学校名	静岡県立静岡商業高等学校
テーマ	韓国語（ハングル語）講座【課題研究の一講座】		
<p>1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2外国語を習得することにより、国際感覚をより深く身につける。 ・隣国の言語学習を通じて、隣国のことを知り、親しみを持たせる。 ・隣国の異文化に触れることにより、アジア諸国の中での日本の存在意義を確認する。 <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル語検定の5級～4級程度の受験を目指す。 ・日常会話、買い物(韓国へ行った時困らない程度)、自己紹介等ができるようにする。 ・韓国人の講師をお願いし、会話能力の向上を図っている。 ・韓国の文化を勉強する機会となっている。 <p>3 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年連続日韓交流事業へ参加 ・毎年、ハングルスピーチコンテスト静岡大会へ参加 ・卒業後、大学・専門学校で韓国語を第2外国語として履修し、さらに学習を深めている。 ・家庭学習中に自分たちで韓国を旅する生徒も出ている。 ・講師の先生以外、正しいハングル語に接する機会が不足しており、特に聞き取り能力を高めるために苦慮している。 			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・国際感覚が身につく。 ・コミュニケーション能力の向上。 		

都道府県名	愛知県	学校名	愛知県立愛知商業高等学校
テーマ	E S D活動を通じたグローバルに活躍できるビジネスリーダーの育成		
<p>1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門高校生インターンシッププロジェクト（愛知県教育委員会主催） 東南アジアの企業でのインターンシップや現地高校生との交流活動等の体験を通して、主体的かつ積極的に異文化に接する態度を身に付けるとともに、広い視野に立ったグローバル人材育成を目指している。 <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門高校生インターンシッププロジェクト（愛知県教育委員会主催） 平成27年度 訪問先：マレーシア コース：工業コース（工業）・商業コース（商業） 参加生徒：8名 期間：10日間 企業訪問・現地学校訪問・産業・文化視察 平成28年度 訪問先：タイ コース：グローバルテクノロジーコース（工業） グローバルフードビジネスコース（商業・農業・家庭） 参加生徒：8名 期間：10日間 企業訪問・現地学校訪問・産業・文化視察 平成29年度 訪問先：タイ コース：グローバルテクノロジーコース（工業） グローバルフードビジネスコース（商業・農業・家庭） 参加生徒：8名 期間：10日間 企業訪問・現地学校訪問・産業・文化視察 <p>3 成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化に貢献するプロジェクトを目指し、地域を担う人材を育成できる。 ・E S Dの視点から地域や国境を越えた国際平和活動を展開できる。 ・課題提案・解決能力、コミュニケーション能力を育成し、グローバルに活躍できる人材を育成できる。 ・チャレンジ精神を身に付けさせることができる。 ・ビジネスの創造力・課題提案・解決能力、商品開発力を育成することができる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各取組を学校全体に拡大させる。 ・数多くの実践機会を与える。 ・さらなる企業との連携を図る。 			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルに活躍できる人材及び地域を担う人材 ・課題提案・解決能力、コミュニケーション能力 ・ビジネスの創造力、商品開発力、マネジメント力 		

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立大垣商業高等学校
テーマ	<p style="text-align: center;">企業分析事例研究</p> <p style="text-align: center;">「企業分析を通して、グローバルな視点での課題解決型自主学習の在り方を考える」</p>		
<p>1 目的</p> <p>企業分析事例研究の学習領域は、戦略論、組織論、意思決定論、企業形態論など多岐にわたっている。商業科目「課題研究」では、それらの根幹となる企業情報を分析する能力について、『ユーレット』【※注釈】を使って学習する。本科目は「事例研究」であることから、最新のニュースで取り上げられた企業を中心に、毎回特定の企業を研究対象にする。対象企業の業績や今後の経営予測について『ユーレット』を活用し、情報の調べ方、情報の関連付け方を学ばせる。その指導方法について教育コンテンツとして作成し、自主学習及び授業の課題管理を行うための e-learning システムを構築する。</p> <p>2 内容</p> <p>授業の進め方は、上述のように『ユーレット』を使いながら各テーマについて理解を深める。各セッションのまとめとして、レポート（小論文方式）の提出を予定している。国内企業のみならず、国際社会での競争にも目を向け、グローバルな視点で各生徒が自主的に解決する手段としての e-learning システムを実践していく。</p> <p>3 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の意味を理解できる。 ・企業分析のための思考プロセスのポイントがわかる。 ・ニュースなどの事例を企業情報と関連付けて考察する力を有している。 ・企業情報を自ら分析し、就職活動の指針にできる。 <p>今後これらの力をあらゆる場面において、発揮できる力を身に付けさせることが課題となる。</p> <p>【※注釈】 『ユーレット』とは… ユーレット株式会社 (http://www.ullet.com/) が開発し 2006 年から公開している企業価値検索サービスであり、上場企業約 4,000 社の企業情報を有価証券報告書の情報をもとにまとめた無料のポータルサイト。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>本授業を通して養われる「情報を関連付ける力」は、今後の就職活動における企業研究に役立つ。さらに、就職後における経営戦略立案にも活かされる。また、持続可能な開発に関して、体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）、代替案の思考力（批判力）、データや情報の分析能力を身に付け、グループ学習を通して、コミュニケーション能力、リーダーシップの向上を高めることが期待できる。</p>		

都道府県名	三重県	学校名	三重県立宇治山田商業高等学校
テーマ	グローバル社会で求められる力の育成		
<p>1 目的</p> <p>社会、経済等のあらゆる面においてグローバル科が急速に進展する中、国際的な舞台で活躍し、積極的に発信する力が求められている。また、国内・県内においても、グローバルな視野に立って自らの考えや意見を適切に伝えること、異なる文化・伝統に立脚する人々と共生できる能力や態度を身に付けることも必要である。</p> <p>これらを踏まえ、本校では主体的に他者と協力しながら未来を切り拓くとともに、「英語」によりコミュニケーションを図り行動できる人材の育成を目指し、次の取組を行っている。</p> <p>2 内容</p> <p>① 英語の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 「4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する」ため、読んだり聞いたりして理解した内容を、口頭で要約したり書くといった活動を多用。 「授業」と「家庭学習」の相違点を意識し、「授業」では「仲間がいないとできないこと」を中心に据え、ペアワークやグループワーク等を取り入れビジネスシーンで使えるコミュニケーション力の育成に重点を置いた授業を実施。 <p>② 海外との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの学校と姉妹校提携を結び、毎年9月には姉妹校から本校に短期留学生在が来訪し、3月には希望する本校生徒が姉妹校を訪問するなど相互交流を実施。 毎年12月には、米国への短期語学研修も実施。 <p>③ 異年齢交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際科1年生の生徒全員が近隣の小学校を訪問し、小学校での既習事項を取り入れつつ英語の歌やゲームなどのアクティビティを行うなど「小学校外国語活動」を実施。 <p>④ 伊勢志摩地域のPR・広報等</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊勢市からの依頼を受け、ビッグデータを活用した課題解決学習を実施。 ジュニアサミットや国際地学オリンピック（共に H28）でのアテンド、英字新聞の作成等をとおして英語による伊勢志摩のPR・広報を実施。 <p>3 成果と課題</p> <p>異なる文化に立脚する人々に日本や三重県のことを伝えるためには、語学力の向上を図るだけでなく、自国や地域のことを深く知ること、自分の考えを持ちそれを相手に伝えられるコミュニケーション力を持つことが必要。そのためには、各取組を一過性のイベントで終えることなく、様々な教育活動と関連を持たせ、地域と連携しながら体系的にグローバル人材の育成を図ることが重要。</p>			
育成が期待できる資質・能力	主体性、課題解決力、英語によるコミュニケーション力、協働力、異文化理解の力 多文化共生の精神、発信力		

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立八幡商業高等学校
テーマ	国際理解教育・国際交流の推進		
<p>1 目的</p> <p>(1) 修学旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> * 台湾を訪問し、現地の自然や伝統文化に触れるとともに、現地の人々や学校との交流を深め、国際化の進展する時代に活躍できる豊かな人間性を育成する。 * 台湾の産業や観光ビジネスに触れ、商業学科の学習に活かす。 * 文化的建造物や史跡等を通じて歴史を再認識、民主的な国際社会を形成する人材育成を行う。 <p>(2) 短期海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> * 国際理解教育の一環として、異文化体験と実践的英会話研修を通して、国際化の進展する時代に活躍できる豊かな人間性を育成する。 <p>(3) SPH事業（グローバル人材育成プログラム）</p> <ul style="list-style-type: none"> * グローバルな視点でビジネスを実践できる能力を育成するとともに、多様な文化や価値観を理解しながらビジネスを実践できる能力を育てる。 <p>2 内容</p> <p>(1) 修学旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> * 3泊4日の行程で台湾を訪問。文化的建造物や史跡等の見学等とともに、1日は本校の姉妹校を訪問し、生徒間交流を実施。また、行程内の半日は、グループごとに台湾の大学生による現地案内や交流を実施。 <p>(2) 短期海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> * 全校生徒から希望生徒を募り、毎年、夏季休業期間中に3週間程度の海外研修を実施。研修先は、隔年でイギリスとオーストラリアである。 研修の主たる内容は、語学研修であり、現地の家庭にホームステイをしながら、現地の学校で研修している。また、ホームステイ先での体験や現地見学等により、異文化体験をさせている。 <p>(3) SPH事業（グローバル人材育成プログラム）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 本年度からの実施計画であり、現代段階では未実施である。 本年度は、第2学年生徒から希望生徒を募り、語学力等の選考後、海外でのインターンシップを実施予定している。海外に進出している日本企業の支店で、販売実習等の体験をさせる予定である。 <p>3 成果と課題</p> <p>(1) 修学旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> * 修学旅行後の生徒のアンケート結果等からは、「姉妹校での生徒間交流」、「現地大学生による現地案内・交流」が高評価であり、実施後（帰国後）も姉妹校の生徒との交流が継続している生徒も数多いようである。 また、現地の文化的建造物や史跡等の見学等により、異文化等にもふれ、国際的な視野・視点が深まっているように考える。 * 現地（台湾）の人たちとの交流には、やはり語学力が必要であり、今後も語学力向上に向けた本校での取組が重要であると考え。 <p>(2) 短期海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> * 参加生徒の語学力の向上は確かで、研修参加をきっかけに長期留学等に興味・関心等を示す生徒もいる。 * 近年、研修先国の情勢や研修先の状況等により、参加希望者数に変動することがあり、計画が立て辛い面が生じている。 			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> * 国際化の進展する時代に活躍できる豊かな人間性 * 語学力の向上と、国際的な事項に興味・関心等を持ち、国際感覚豊かな人間性 * グローバルな視点を身につけ、多様な文化や価値観を理解しながらビジネスを実践できる能力 		

都道府県名	京都府	学校名	京都府商業教育協会（京都府合同チーム）
テーマ	京都逸品展「京の食」香港トライアル ～商業科設置校合同チームによる海外販売実習～		
<p>1 目的</p> <p>京都府内の商業について学ぶ高校生が、伝統と文化に育まれた産業、あるいは地域に根ざした産業と連携して開発あるいは調達した商品を海外において販売することで、地球規模の視野で考え、地域視点で行動する「Think globally, act locally」人材として成長することを目的とする。</p> <p>2 内容</p> <p>「京都逸品展「京の食」香港トライアル」（運営者：有限会社奥村企画、主催：京都府商工労働観光部海外経済課、公益財団法人京都産業 21、場所：香港 SOGO）への参加要請が京都すばる高校にあり、京都府高等学校商業教育協会として参加することにして、商業科設置各校へ参加を呼び掛け実現した。SOGO は多くの中国本土の観光客が買い物をする店舗としても位置付けられるが、地下 2 階の食品売り場は地元の香港人もよく利用する場所の一つである。参加生徒：網野学校（2 名）・木津学校（2 名）・京都明德学校（4 名）・京都すばる学校（12 名） 8 月 10 日～15 日（2 団）</p> <p>3 取扱商品</p> <p>ハス茶・ほうじ茶レモン・お茶ギフトセット（木津高校） 桜の花漬（京都明德高校） 米の花小町／黒米甘酒（京都すばる高校） わかめのグーチョキパー・琴引の塩（網野高校）</p> <p>4 成果と課題</p> <p>今年度初めて京都府内の商業を学ぶ生徒が集まり「京都逸品展「京の食」香港トライアル」という海外での販売実習の取組ができた。海外での販売実習は、日本とは文化や言葉も異なるため、お客様の反応を伺いながら試行錯誤をし、その場で臨機応変に対応していく必要があった。どうすれば売れるようになるかを自分たちで意見を出し合い、実際に試飲や試食方法を考えた。そこでまた新たな課題を発見し、改善していくという P D C A を、販売実習を通して学ぶことができたと思う。他校生とも協力しながら日々挑戦し成長していく生徒の姿に、教師として大きく心を打たれた。</p> <p>今回の取組は、世界と日本の企業のビジネスの世界を肌で感じたことで視野が広がり、生徒の将来の可能性を広げ、様々な面で大変貴重な経験となった。生徒たちが挑戦していた姿を忘れずに、自分自身も挑戦する気持ちを持ち続けたいと思った。今回の取組を通して、京都府の商業教育の横の繋がりも深まった。今後もこの繋がりを大切にし、京都府の商業教育が香港の町のようにさらに活気づいていくよう頑張っていきたいと思う。ぜひこの取組を次年度以降も継続していきたい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	 <p>世界的な競争と共生が進む香港市場を自分で体感することにより、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代まで視野に入れた社会貢献の意識などが育成できると考える。</p>		

都道府県名	大阪府	学校名	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校
テーマ	グローバル化をめざした実践教育		
<p>1 目的</p> <p>グローバル化が進む社会の中で、多くの外国文化や外国語（特に英語）に触れる機会をチャンスと捉え、より広い視野と、多様な価値観を育成し、幅広い分野で活躍できる人材育成を目的とする。</p> <p>2 内容</p> <p>海外研修の機会を設け、語学の習得は勿論のこと、異文化理解と異文化交流の場を設定し、生徒の積極的にコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>ホームステイの実施で、外国の生活文化にも接することで、生徒自身の生活文化との比較ができ、さらに日本文化や日本の価値観について考えさせる。</p> <p>国内に於いても、イングリッシュキャンプとして、宿泊を伴い英語のみの研修を行い、観光地での外国人へのインタビューを通して、コミュニケーション能力の育成と、集団づくりを促す。</p> <p>校内に外国人留学生を招き、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>海外研修旅行に参加した生徒は明らかに視野が広がり、学校生活に取り組む姿勢が積極的になった。英語への関心も非常に強くなり、取り組み方が依然と比べ物にならないくらい、良くなっている。しかし、生徒全員が参加できるものではないことが残念である。そのような課題が明白であるため、国内でのイングリッシュキャンプや、外国人留学生の招聘で少しでも多くの生徒の自主性と積極性を引き延ばす努力をしなければならず、また授業の中でも各教科間でのコラボレーションや英語による実践授業を取り入れることを進めなければならないことが大きな課題である</p>			
育成が期待できる資質・能力	積極性 自主性 コミュニケーション能力 語学力 チャレンジ精神		

都道府県名	兵庫県	学校名	兵庫県立洲本実業高等学校
テーマ	グローバルスタディーに向けて		
1 目的	<p>国際ビジネス科での専門的な学習に加え、校外研修を通じて国際理解を深め、よりグローバルな視点で物事に興味・関心を持ち、本科の生徒としての能力と資質の育成を目的とする。本科では、地域に根ざし、郷土愛を育み、淡路島のすばらしさを発信できる人材づくりとともに、グローバルに活躍できる人材育成をめざす。講師の活用、校外研修により、「本物を知る」（リアルな情報）、「見て・聞いて・感じる」（体験）を取り入れ、生徒が主体となり考え活動できる教育を展開させる。</p>		
2 内容	<p><1年> 講 話：ホテルニューアワジ女将「淡路島で生きる」 校外研修：JICA 関西 「異文化理解」「国際理解」と「豊かさ」の学習。講話内容については、「国際貢献と助け合うということ（日本のモルディブ支援活動）」や海外での体験談などに加え、多国籍料理での昼食や貿易体験の実施。</p> <p><2年> 講 話：神戸ビジネスアドバイザー 「繋がる世界（海外ビジネスから見えたこと）」 校外研修：大学訪問 留学生との国際交流と起業家による講話など 社会見学 空港見学と有名土産菓子店の工場見学など</p> <p><3年> 課題研究（商品開発） 郷土料理の改良し、時代に合った進化した郷土料理を開発し地域への発信。特産物を使いコンテストなどへのチャレンジ。 講 話：料理研究家 商品開発に向けた、開発商品の試食とアドバイス。 校外研修：社会見学 ホテルのバックヤードツアーの実施。支配人による講話とテーブルマナー実習など</p>		
3 成果と課題	<p><成果> 昨年度より、新しい取り組みとして上記の内容を実施し、地域への関心と国際理解について生徒の感性を磨きながら興味・関心を深めることができた。想定外の成果として、研修に向けた事前学習を英語科に協力を依頼し、アイデアの提供など教師間での連携ができ、充実した教育内容をつくり上げられた。 また、レポート（感想など）提出による振り返りをさせることで、表現力や文章力の向上だけでなく、経験をとおり生徒自身で講話や研修に向けた態度やマナーを意識することで自然と良い雰囲気づくりの効果が出た。</p> <p><課題> 本校の校外学習の展開としては、①国際理解②国際交流③社会見学の順での実施が望ましいと思う。それに併せた講話の内容や講師の人選などを行うことが必要である。 同様に生徒たちの学習のニーズを把握できる時間を作り、担当者自身が研修・講師に関するネットワークを広げるなど、より充実した内容を展開することが今後の課題である。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<p>コミュニケーション能力と自ら考え伝える自己表現力、問題を定義し、それに対する解決できる判断力。多様な価値観を尊重する態度と国際社会に貢献できる柔軟な適応力。</p>		

都道府県名	奈良県	学校名	大和高田市立高田商業高等学校										
テーマ	商業高校における英語基礎力の向上および異文化理解への 関心を高めるために												
<p>1 目的</p> <p>英語の基礎力を高め、特に4技能の向上を目指していく。「書く」「読む」だけでなく、「聞く」「話す」の力を付けていくことを目指す。生徒たちが達成感を得るために、様々な検定の取得を目指させる。</p> <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークを重視し、積極的に話させる。検定取得に関しては補習も実施する。 ・卒業生を中心とした留学体験談を聞く会をしばしば開催する。 ・大学と連携し、外国人留学生との交流をはかる。 ・姉妹校留学生を年1回受け入れ、交流する。 <p>3 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用英語技能検定の合格者数は、 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成24年度</td> <td>2級</td> <td>0名</td> <td>準2級</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>2級</td> <td>10名</td> <td>準2級</td> <td>72名</td> </tr> </table> ・外国語学部を志望する者や卒業後留学する者も増加しており、着実に成果が上がっていると感じている。 ・今後4技能スコア型のテストにも挑戦していきたい。 				平成24年度	2級	0名	準2級	25名	平成28年度	2級	10名	準2級	72名
平成24年度	2級	0名	準2級	25名									
平成28年度	2級	10名	準2級	72名									
育成が期待できる資質・能力	英語コミュニケーション力や海外の方と接した時の自信等												

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立神島高等学校
テーマ	商品開発の取り組み ～梅の魅力を伝えたい～		

1 目的

神島高校では平成24年度より、課題研究として「商品開発」の講座を設け、地域にある唯一の商業学科として、特産品である「梅（紀州南高梅）」の消費拡大に協力できるように「梅」を用いた商品開発に取り組んでいます。また、開発した商品は販売実習店舗「神島屋」として、地域内外の様々なイベント等で販売しています。

2 内容

梅を用いた商品開発

- ・梅あられ(平成24年度)
- ・梅やきとりのたれ(平成26年度)
- ・観梅バスツアー(平成26年度)
- ・かしまや ～梅づくしのご褒美弁当～(平成28年度)



梅をPRするレシピ開発

- ・梅やきとり(平成25年度)
- ・やにこーうめえで！紀州あがらの家族丼(平成26年度)
- ・カレーなるトルティーヤ ～紀州うめどりと共に～(平成27年度)
- ・めはりんとおにぎらずんの出会い(平成27年度)
- ・紀州うめどりの親子バーガー ～カリカリ梅のタルタルソースを添えて～(平成28年度)
- ・梅えくっぱ(平成28年度)
- ・紀州うめどり・うめたまごの2種盛 pasta ～合わせて食べると梅えカルボナーラ～(平成29年度)



3 成果と課題

グローバル化や情報化が叫ばれる今日ですが、神島屋では自分たちの住んでいる地域と関わることを目的として、商品開発・レシピ開発・観光プラン作成・ビジネスプラン作成などの取り組みをおこなっています。開発した商品やプランは各種のコンテスト等への参加を通して、地域内外に発信しています。(右の写真は第5回ご当地！絶品うまいもん甲子園優勝の副賞として参加させていただいたハワイでの販売実習の様子です。)



これらの取り組みは3年次の選択授業において実施しているので、生徒達は一年間しか関わる事がなく、取り組みの継続が難しい点が課題となっています。

育成が期待できる資質・能力

神島屋の取り組みに参加した生徒たちの中には、商品開発などで連携協力いただいた企業に就職した生徒も多数おり、高校生と地域の企業とがマッチングする場になっていると考えられます。様々な企業との連携やイベントへの参加を通して、学校内だけでは出来ないような経験をした高校生たちが積極的に地域に関わるという循環も生じており、神島屋の取り組みが地域の担い手や地域活性化に貢献できる人材の育成に貢献していると考えています。

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立鳥取商業高等学校
テーマ	国際交流活動によるグローバル感覚の育成		
1 目的	<p>海外からの訪問団受入れ、海外への生徒派遣などの国際交流活動を積極的に行い、言葉や文化を異にする人々との交流を体験することによって、世界市民としての意識を高めるとともに「グローバル感覚」を養う。</p>		
2 内容	<p>○教員視察団の受け入れ</p> <p>◆モンゴル中央県フムーン総合学校訪問団（28年6月） 日本語を履修する生徒5名と中央県教育担当専門官1名の6名を迎え、歓迎行事と生徒交流会、授業参観および授業体験を実施した。書道ではひらがな、漢字、カタカナといろいろな文字に挑戦し、ガイド役の本校生徒の名前を漢字で書いたり、自分の名前をカタカナで書いたり初めての書道体験をしていただいた。</p> <p>◆韓国江原道教員交流団（28年10月） 江原道教育庁教育安全課長をはじめ10名の教職員を迎え、本校職員との意見交換のち、江原道の先生方に本校1年生に韓国文化などについての授業を行っていただき、グローバル感覚を磨くよい機会となった。</p> <p>○生徒の海外派遣</p> <p>◆モンゴル中央県友好交流20周年記念事業（29年7月） フムーン総合高校の生徒との交流では、「家畜のくるぶしの骨」で作った「シャガイ」を使ったゲームをしたり、両県の混合チームによるバレーボール大会や調理実習等を楽しんだ。片言の日本語であっても、恥ずかしがらず積極的に話しかけてくるモンゴルの高校生たちと接し、参加した本校の5名は自分達との違いをはっきりと認識したようである。</p>		
3 成果と課題	<p>生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生や海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設けることができ、グローバル感覚を養うことができているのが成果と言える。</p> <p>一方で、韓国の清州女子商業高校との姉妹校交流は相手校の事情もあり、近年は交流ができていない。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 ・語学力 ・グローバル化に対する意欲・関心の高揚 		



都道府県名	島根県	学校名	島根県立松江商業高等学校
テーマ	教科の垣根を越え「商業科×英語科」のコラボレーションから可能性を生み出していく試み		
<p>1 目的</p> <p>本校設置3学科のひとつである国際ビジネス科は、「外国語でのコミュニケーション力と国際感覚および実践的な簿記会計の活用能力を身につけ、国際社会で活躍する人材」を将来のめざす姿（ディプロマポリシー）としている。この学科を「グローバル&アカデミック学科」としてさらに特色づけ、商業科と英語科が協力して次項（2内容）に記載するプロジェクトに挑戦している。</p> <p>2 内容</p> <p>① 高校生英語ディベート大会出場</p> <p>秋季開催される上記県大会に出場するために、1学期から授業（第3学年）の中で論題にかかわる調べ学習、さらに、学習内容の深化を図るためのグループディスカッションを行っている。ディベートは、肯定側と否定側の両面の考えを共有し、ものごとを多角的にとらえる力がつくものと考えている。また、英語でのディベート実践を通して、将来的・継続的な英語力向上と同時に発信力やコミュニケーション力の向上も期待している。</p> <p>② 英文会計</p> <p>日本企業・外国企業の財務分析を行い、「投資」「M&A」等の意思決定を行わせる実習を行っている。パワーポイント資料を使ったプレゼンテーション発表を実施し、相互評価している。今年度は英語による発表を目標にして取り組んでいる。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>情報を収集・分析し、浮き彫りとなった課題を仲間と協働して解決しようとする意欲態度が身に付いた。また、仲間との議論の結果を英語により情報発信することにより、英語力の向上、コミュニケーション能力、健全な批判力も養うことができた。また、こうした活動は論題（昨年度はベーシックインカム導入について、今年度は移民政策緩和について）と日本の課題を結びつけて考える機会となり、生徒の思考力育成、視野の拡大に有益なものとなった。昨年度の活動を振り返り、教員主導から生徒主体の活動が中心となるような仕掛けづくりが必要であることが課題であった。今年度は、商業科と英語科の教員が密に連絡をとり、また計画的に取り組むことで少しずつこの課題が克服されつつある現状である。</p>			
育成が期待できる資質・能力	コミュニケーション能力、主体的なものごとに取り組む力、協調性、発信力、クリティカルな思考力		

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立岡山南高等学校
テーマ	国際経済科「総合実践」における英語観光ボランティアガイドの実践		
<p>1 目的</p> <p>日本三名園のひとつ岡山「後楽園」を訪れる外国人観光客に対して、「国際経済科」3年生が英語による観光ガイドのボランティアの活動を通じてコミュニケーション力を養うとともに言語活動の充実を図る。また、高等学校で学んだ内容を社会貢献活動として地域社会に活かす力を涵養する。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 対象生徒および科目 国際経済科3年生 40名「総合実践」3単位（ガイドは2時間連続時）</p> <p>(2) 取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「後楽園」内の観光スポット20か所を2人ペアで担当し、英語ガイドテキストをもとにガイド箇所の学習やガイドをわかりやすくするための写真等の小道具の作成など事前準備を行う。 ・「後楽園」を中心とした岡山についての地域学「岡工学」を学習し、ガイド箇所以外での外国人観光客からの質問や雑談による会話のための学習を行う。 ・実際のガイド場所で日本人ガイドを講師として、日本語と英語による観光ポイントのガイド内容や方法について2回にわたり研修を行う。 ・英語ボランティアガイドを6月15日（木）、6月22日（木）9月14日（木）、9月21日（木）、10月26日（木）、11月2日（木）の計6回「後楽園」で実施した。 ・学校での授業では、ボランティアガイドの実施後、ガイドについての振り返りを行い、次の実践に向けて、ガイドの不備の修正、会話の練習を行い改善に向け取り組んだ。 <p>3 成果と課題</p> <p>この取組は平成27年度から実施している。本年度は「後楽園」での事前学習が2回、実際のガイドを6回と実践回数を増やすことにより、コミュニケーション力が鍛えられ、生徒の活動を通じた学習に対する主体性や地域に対する理解、異文化に対する更なる興味関心が高まった。外国人観光客を相手にガイドをするために準備しているとはいえ、緊張感と会話の難しさを生徒は感じている。生徒の感想から「自分の英語力の低さを思い知った。」「言葉が出なくて、恥ずかしかった。」「コミュニケーションには自分からという積極性が重要。」などがあり、伝わらない挫折感から次こそ伝えたいという意欲につながり、伝わったときはその達成感がさらにモチベーションをあげている。</p> <p>課題としては、ガイド実践の対応人数が、環境（天候、人気不人気観光スポット）によって差が出ることがある。担当するガイド場所のガイド後、次のスポットへ英語による会話をしながら誘導しているが、ガイド場所で待つだけでなく、動くことも必要であり、どのような活動をしていけばよいかについては生徒にしっかりと考え行動させたい。また、外国人観光客は生徒に対してとても暖かい。それに甘えることなくガイドやコミュニケーションの質を高めるために、生徒同士でロールプレイなど行いながら、お互いを間接的に評価することで、学びを深めていきたい。</p> <p>生徒が社会に出てから活用できる知識や技術、能力や態度を育成することを商業教育は目指している。教室での学びは「実学」について気づきが少なくなりやすい。地域との連携・交流による実践的教育を取り入れることにより少しずつ授業を充実させ、グローバル社会で貢献する高い志をもつ生徒を育成していきたい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に対応する力（日本と外国の伝統や文化に対する深い理解、外国語によるコミュニケーション能力など） ・学びに向かう力（意欲・集中力・持続力等） ・主体性・自律性に関わる力（課題発見、思考力、判断力、表現力による課題解決力等） 		

都道府県名	広島県	学校名	広島市立広島商業高等学校
テーマ	学校デパート及び海外修学旅行を通じたグローバルな視野の醸成		
<p>1 目的</p> <p>本校は、商業の学習と学校独自の開催哲学である平和学習・平和貢献を繋ぐ学習をさせたいと考え、「広島市商ピースデパート」の取り組みを展開している。これはヒロシマの高校生として「平和貢献」の意識とホスピタリティの精神を重んじ、ビジネスの体験活動を通して、企業経営のセンスと専門知識を身に付け、広く社会で活躍できるプライドと行動力を育成することが目的である。また、修学旅行においては、海外で国際交流を図り、異文化理解や商業事情、観光業務を知る機会となっており、これからのグローバル社会を展望し、新たな価値を創造するビジネスのプロフェッショナルを育成することを目的としている。</p> <p>2 内容</p> <p>「総合的な学習の時間」において、「商業活動から平和をつくる」を柱とし、全校生徒が仕入から販売、決算、納税まで主体的に取り組む、模擬株式会社「広島市商ピースデパート」の運営をしている。昨今の訪日外国人旅行客の増加に対応していく資質、能力を育成する目的で、平成28年度より、新たな学校デパートのテーマに「インバウンド」を加え、外国人に対する接客・サービスについての学びを深めている。英語での接客、英語のパンフレット・POP広告の作成や、ターゲットを絞った商品の取り揃えを行い、外国人のお客さまに対する「おもてなし」を実現している。</p> <p>平成29年1月、地域貢献、国際理解、国際協力・交流の奨励団体に贈られる「第19回広島ユネスコ活動奨励賞」を受賞した。</p> <p>また、本校みらい商業科「観光コース」の修学旅行においては、広島市と姉妹都市提携を結んでいる大韓民国「大邱広域市」を訪問し、観光を通しての異文化を学び、現地の大学生へも広島誘致観光プロモーションのプレゼンテーションや交流を行い、グローバル化に対応できる能力の育成を目指している。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>ア. 学校デパートにおいて、外国人のお客さまに対する積極的な接客姿勢が生まれた。</p> <p>イ. 異文化体験を通して多様な価値観に触れ、海外で活動することに興味・関心を示すようになった。</p> <p>(2) 課題</p> <p>ア. 全生徒が外国人に対する接客の場面を設定し、より深い対話につながる仕組みを構築すること。</p> <p>イ. よりグローバルな視点を身に付けさせることができる指導を工夫すること。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協調の精神及び文化や商慣習の違いを理解する力 ・外国人に対する一般的な応対や会議での返答、商取引に関する実用的な英会話能力 ・自ら海外事情を知ろうとし、国際交流に取り組もうとする姿勢 ・経済の国際化の動向や課題を発見し、解決する力 		

都道府県名	山口県	学校名	山口県立防府商工高等学校
テーマ	外国人による学校訪問の受け入れおよび長期留学生の受け入れ		
1 目的	<p>外国人を招き入れることにより、互いに異文化の理解を深め、ビジネスにおける外国語の重要性を知り、外国語の学習意欲の向上を図ることを目的とする。</p>		
2 内容	<p>(1) 平成28年5月に台湾の国立彰化高級商業職業学校から高校生訪問団が本校を訪れ、随行員と本校の中国語講師が通訳となり、授業見学や交流会を行った。本校の中国語選択者も積極的にコミュニケーションを取り、友好を深めた。</p> <p>(2) 平成28年7月にアメリカのモンロー市からの短期留学生が本校を訪れ、商業に関する実習や地域交流イベント準備などの実習を行った。本校が位置する防府市はモンロー市と姉妹都市縁組を結んでおり、毎年短期交換留学生の受け入れを行っている。</p> <p>(3) 平成28年9月から約1年間、AFSプログラムにより、アイスランドから18歳の女子の留学生1名を商業科2年のクラスで受け入れた。昼休みや放課後にクラスメイトで日本語やアイスランド語を互いに教え合い、そのことを通じて外国の言葉や文化に互いに親しんでいった。彼女は来日前は商業を学んだことはなかったが、商業教育そのものには大変興味を示し、高い意識で授業に参加した。また、全商検定にもチャレンジし、英語検定1級(満点合格)や電卓検定1級に合格した。(ちなみに彼女は英語は得意であったが、母国語はアイスランド語である。)</p>		
3 成果と課題	<p>内容的には外国人の訪問団や留学生をただ受け入れただけであるが、生徒はその国に興味を持ち、かつ、コミュニケーションを取るためには外国語が重要なツールであることを痛感し、外国語を積極的に学ぼうとする意欲が高まったことが成果としてあげられる。反面、課題としては、教科「商業」においてのグローバルな視点で、物事を捉えようとする意識があまり上がらなかったことである。外国語の必要性もさることながら、外国でのビジネスマナー等を理解した上で、外国人に接する機会を与えられれば、なお効果的な学習が期待できる。今後は、本校の生徒が、外国人と「商業の分野」においても交流が図れた、というところまでつなげて行きたい。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<p>異文化理解 外国語でのコミュニケーション能力の向上</p>		

都道府県名	香川県	学校名	香川県立三木高等学校
テーマ	希少糖を世界へ！		
<p>1 目的</p> <p>地域との連携を通して、経済社会で通用する実践力を身につけるとともに、地域に貢献できる人材を育成する。</p> <p>2 内容</p> <p>本校の総合学科流通系列では、過疎化が進む三木町小菘地区の活性化に 2015 年から取り組んでいる。特産品を使った商品の開発や、地元の夏祭りの企画・運営に携わるなど、地区の人たちとの交流を続けている。2016 年には小菘を紹介する Web ページを作成、サイト名を「晴ノチョコミノ」とし 2017 年 8 月に公開した。</p> <p>小菘地区には「希少糖研究センター」がある。希少糖は、食後の血糖値の上昇を抑えるなど健康効果が期待されている砂糖である。三木高校では希少糖を使ったスイーツの開発を 6 年間続けている。開発当初の思いは、地元で誕生した希少糖を使用し、地元貢献したいということであった。今では、希少糖は香川や全国で有名になり、希少糖を使った商品も多く誕生している。</p> <p>2016 年度全国産業教育フェアで本校の取組について発表した。世界中の人に希少糖を知ってもらいたい、健康になってほしいという思いを英語で発表し、コンテストでは最優秀賞を受賞した。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>地元の方々との交流は、生徒にとって貴重な経験である。生徒は交流を通して人の温かさを感じ、自分たち高校生にできることは何かを考えるようになる。仲間と協力することの大切さを学び、控え目だった生徒が、自分の意見を言えるようになる。その中で、このままでいいのかと悩み、一人ひとり考え方は違うのだということに気付いていく。そして、将来についても考えるようになり、地元貢献したいという夢をもつ。地元の大人と話をすることや企業の方と接することは、生徒の成長につながる。このことが一番の成果だと考える。</p> <p>小菘のお年寄りのために、高校生にできることは何か。開発商品の販売やメディアに取り上げてもらうこと、コンテストなどで発表することで、認知度は高まるだろう。このような活動を通して多くの人に小菘を知ってもらい、訪れる人が増えていくことを願う。今後も地元の高校として、地域と連携した活動を継続して行う必要である。「続けていくこと」が課題である。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発を通してビジネスを実際に経験することで、教科書で学んだことを活かせる。失敗も経験し、臨機応変に対応できるようになる。達成感を味わい、自信がつくことで、学習面にもよい影響がある。 地元の人から感謝されることが多いため、自信がつく。視野が広がり、将来の目標を持つようになる。地域に貢献したいと考えるようになる。地域活性化に携わる大人と接することで刺激を受け、自分自身を見つめ直し、将来を考えるようになる。 地域活性化とは、答えのない問題に取り組むことである。このため、主体的に考え行動する力が育つ。また、仲間との意見の対立を経験することで、違いを認め、協働的に取り組む態度が育つ。さらに、問題を発見する力、解決する力を身につけることもできる。 		

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立徳島商業高等学校
テーマ	国際支援、国際ビジネスを通じた GLOCAL 人材の育成		
1 目的	<p>本校が目指す育成したい Glocal 人材像とは、地域の魅力を地域から世界へ発信することができグローバルな感覚を持つプロデューサーの資質を持つ人材である。取組は「国際理解」はもちろんのこと「国際経済への理解の深化」「言語を超えた交流」を目指すものである。</p>		
2 内容	<p>連携先であるカンボジア・友好学園の問題点は「学校運営の資金不足」ということである。そこで共同で商品開発し、その売上で学校運営を助けるという自立支援型プロジェクトを立ち上げた。</p> <p>主な生徒の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCM（プロジェクトサイクルマネジメント）手法を用いての分析 ・テレビ会議を用いての発想法の伝達 ・共同商品開発 ・国際展示会出展（マーケティング調査） ・ロゴマークの作成 ・商標申請、国際商標申請 ・両国における販売実習 ・実教出版「商品開発」教科書のクメール語化翻訳のサポート ・工場設計図の考案（建築士指導の下） ・工場模型の作製 工場商品の原価計算 ・HACCP の学習（工場設計図の変更） ・GlobalGAP の学習（現地農家との連携） ・工場建設における SWOT 分析 ・マーケティング調査 ・各商品の QC（Quality Control）工程図作成 ・フェアトレードに向けた用途開発 <p>学校全体に広げる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創生委員の創設 		
3 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のカンボジア訪問 2 回 ・友好学園からの受け入れ 1 回 ・JENESYS によるカンボジア訪問団の受入（カンボジア人 26 名） ・カンボジア教育省視察団の受入 ・JICA 研修員（アフリカ各国 25 名）に対する観光ツアー <p>生徒の変化：挨拶など簡単な言葉ではあるが、クメール語で自己紹介できる生徒が増えている。カンボジアに訪問した生徒たちは、言語を学ぶことの重要性を認識し、言語ノートを作っていた。カンボジアにおけるマーケティング調査や国際展示会では、日本人以外の人と多く関わることで考え方の違いや感じ方の違いを肌で感じ、互いの考えを認め合うことを学んだ。また、両校の生徒と一緒にイベントに取り組むことで、互いに切磋琢磨し、大きく成長していると感じられた。</p> <p>Glocal プロデューサー育成の課題は、どれだけ多くの生徒が、国際感覚を身につけることができる機会を設けることができるかである。実際に、海外を訪問した生徒、カンボジアやドイツの生徒が来校したときに対応にあたった生徒については、大きな意識の変化が見られた。年々工夫しながら、多くの生徒が関わる環境作りを行っているが、効果を大きくするためにはさらなる工夫が重要である。</p>		
育成が期待できる資質・能力	<p>「課題発見能力と課題解決能力の育成」、「発想力・想像力と認知開発力（物事の中に新しい関係性を見出し、価値化する）の育成」</p> <p>「心で通じる」「他の人の考えを理解し尊重する」資質を持った人材の育成</p>		

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立松山商業高等学校
テーマ	国際交流		
<p>1 目的</p> <p>同年代の外国人と交流することにより、他国に対する興味・関心を引き出す。また、英語等で交流することにより、外国語学習に対するモチベーションを上げる。そして、初対面の外国人とコミュニケーションし自分の意見を伝えることにより、自己表現力やプレゼンテーション能力を身に付ける。</p> <p>2 内容</p> <p>アメリカのグラント・ユニオン・ハイスクールの生徒とインターネットによるスカイプでお互いの高校生活を紹介するなどの交流を行っている。また、昨年度は、サクラメント市と松山市の姉妹都市提携 35 周年にあたり、訪問団の一員としてグラント・ユニオン・ハイスクールの生徒が来校した。グラント・ユニオン・ハイスクールの生徒がドラムラインを行い、本校の吹奏楽部とコラボ演奏をしたり、杵でお餅つきを体験するなど、楽しくかつ大変有意義な国際交流をすることができた。</p> <p>修学旅行で希望者が台湾に行き、姉妹校である台北市立松山高級商業家事職業学校を訪問し、生徒と交流し、台湾の観光を行った。また昨年度は、松山高級商業家事職業学校の生徒が修学旅行で来校し、本校の国語や芸術、商業等の授業を体験した。本校には選択で中国語の授業があり、お互いの文化や生活について英語や中国語などを使ってコミュニケーションを行った。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>姉妹校の生徒と交流した者は、自分の英語が外国人に通じる喜びを感じるなど、大変楽しく国際交流し、有意義な時間を過ごすことができている。課題としては、テレビ電話等に参加できる生徒は限られており、もっと多くの生徒が国際交流をする機会が与えられとよい。自国の文化をまず理解し、それを紹介することができるよう英語力の向上が望まれることである。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>英語力</p> <p>コミュニケーション能力</p> <p>プレゼンテーション能力</p> <p>自己表現力</p>		

都道府県名	高知県	学校名	高知商業高等学校
テーマ	ラオスに学校を贈る国際協力活動		
<p>1 目的</p> <p>高知商業高等学校が取り組む国際協力活動であるラオス学校建設活動は、大きく2つの目的を持って「ラオスと高知、両方の発展」をめざしています。1つは、NGO組織である高知ラオス会を通じてラオスに学校を建てる活動に取り組み、ラオス教育面への側面的支援を図ることです。もう1つは、本活動の基盤であり活動拠点となる高知への地域振興です。</p> <p>2 内容</p> <p>自主自治を掲げる生徒会を主体として、ラオスに学校を贈る国際協力活動を展開しており、平成6年から活動は24年目を迎え、今までに小学校5校、中高校1校、幼稚園2園と計8つの学校建設に協力してきました。このラオス学校建設活動の特徴は、商業高校の特性を生かし、学校全体が参加できる仕組みにあります。まず校内に模擬株式会社を設立し、生徒・教職員・保護者が株主となって出資します。次に、毎年代表生徒がラオスを訪問し、出資金をもとにラオス伝統の商品を購入して高知で販売します。活動は単年度とし、配当とともにすべての出資金を株主に返還し、残金を高知ラオス会に学校建設資金として贈呈しています。また、本活動の一環として、ラオスそして県内外の企業と共同した商品開発や地元商店街共催のイベントを企画・運営しています。さらに商業高校の特性を生かそうと、ラオス国ビエンチャン県ポンソーン村とビジネスを通じた交流が、平成29年度からはじまりました。まずは村の特産品であるカノムマントンという芋菓子のパッケージングやCMづくりに取り組むことが決定しています。高知での活動も進展し、地元企業との共同商品開発だけでなく、高知県内の地場産品の各生産地を訪れ、生産者取材をしています。生徒たちは商品を取り扱う重みを再確認するとともに、ラオスそして地元高知を舞台に、商業高校で習得する学びを主体的に実践しながら活用・探求する機会となっています。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>成果としては、この活動を通して育まれた生徒たちの自らの課題を発見・解決し、目標を達成していかうという力は学校全体に定着し、社会マネジメント科国際コースや地域実践コースが展開する授業にもつながっていることです。また、自らの考えや企画、その成果や課題を発表する機会も増え、学校全体のプレゼンテーション力アップにもつながっています。</p> <p>課題としては、時代に即すとともに教科を超えた横断的な学びや体験が得られる学習の場にしていくことだと考えています。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>マネジメント力、課題発見・課題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、英語活用力、ICT活用力等、活動に内包される様々な活動や機会によって、多種多様な資質・能力の育成が期待されます。</p>		

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立小倉商業高等学校
テーマ	海外インターンシップ		
<p>1 目的</p> <p>海外インターンシップを通じて、外国の伝統・文化の理解し、外国語（英語・中国語）によるコミュニケーション能力や課題解決能力を育成する。</p> <p>2 内容</p> <p>福岡県が推進する「福岡県 世界に打って出る若者育成事業」応募申請し、海外における短期のインターンシップを行う。</p> <p>(1) 実施国・都市 台湾 台北</p> <p>(2) 期 間 平成 29 年 12 月 15 日（金）～12 月 19 日（火） 事前研修は国内で 2 日の事前、事後研修を行う。</p> <p>(3) 協力企業 「辻利茶舗」北九州市の老舗茶屋</p> <p>(4) 内容詳細 「辻利茶舗」の台湾、現地法人の店舗に於いて、接客、販売やバックヤードにおける業務を行う。また、現地の伝統や文化を理解するため施設訪問や交流も計画している。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>実施初年度であるため協力企業との連絡調整や実施内容の検討等課題として残った。生徒の参加希望が多数あり、次年度に向け選考基準等を明確に示していく必要がある。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流、異文化理解 ・語学力 ・コミュニケーション能力 ・課題解決能力 ビジネス実践力 		

都道府県名	佐賀県	学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校
テーマ	グローバルビジネスコース、グローバル I T コースの取り組み		
<p>1 目的</p> <p>グローバルビジネスに必要な、外国語、会計に関する知識を身に付ける。 国際社会で生きていくための、多文化理解や基本的な教養を身に付ける。 英語、会計に関する高度資格の取得を目指す。 国公立大学、有名私立大学、への進学。 グローバル企業への就職。</p> <p>2 内容</p> <p>高度資格取得のための教育課程の工夫（補習授業との連携） 海外修学旅行の実施（シンガポール） 学校行事としての異文化交流体験、語学研修の実施（イングリッシュデイ、ハウステンボス英会話プログラム、ボルギョ商業高校との国際交流） 大学・専門学校から講師を招聘した特別講座（国際理解・会計）</p> <p>3 成果と課題</p> <p>○成果</p> <p>外国語、会計の分野で高度資格の取得者が増えた。 海外留学や研修に興味関心を持つ生徒が増えた。</p> <p>○課題</p> <p>本校は、2年次より商業科が「グローバルビジネスコース」、情報処理科が「グローバル I T コース」を選択できるが、「コース制」であるためにカリキュラムや進路面での大きな違いを出せないことから、選択時にグローバル系のコースを選ぶ生徒が少ない。しかし、平成30年度より、本校にはグローバルビジネス科が設置され、より特色を出した学習内容となるため希望者増を期待したい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語での実践的なコミュニケーション能力 ・ 簿記会計に関する能力 ・ 国際的な感覚と多文化を理解するための教養 ・ 物事にチャレンジするための積極性 		

都道府県名	長崎県	学校名	長崎県立佐世保商業高等学校
テーマ	グローバル化に対応するための商業教育における外国語教育の重要性		
1 目的	<p>外国語（英語・中国語）をより実践的・総合的な外国語運用能力として身につけ、多様な国際交流などの体験学習により国際感覚を磨きながら異文化等も理解する態度を育てつつ、国際社会で活躍できる生徒の育成を目指している。また、商業教育の中で中国語教育に力を入れる理由は、現在のグローバル化への対応策として、英語だけでなく、世界中で話されている中国語のニーズや本県の地域特性を考慮したためである。（長崎は鎖国時代での海外との唯一の貿易の窓口として中国との交易など歴史的・文化的に密接な関わりがあり、現在でも本県に総領事館があり、上海には長崎県事務所も設置するなど、本県と中国との交流は盛んである。）</p>		
2 内容	<p>○中国語実務・・・（2年次）4単位、（3年次）3単位 ○課題研究・・・（3年次）3単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国人ALTと授業を行うことで、ネイティブの発音や、中国の現代事情等を聞くこともできる ・中国経済の状況にもふれながら中国語を学ぶ ・中国語検定試験にチャレンジする ・映画や音楽等を取り入れ、中国人の考え方や歴史にふれる ・スピーチコンテスト等のさまざまな行事に参加する ・県教委主催の短期留学に参加する（希望者、約2週間） 		
3 成果と課題	<p>成果 ①中国語を学ぶことができる大学への長期留学や進学を希望する生徒がおり、進路選択の幅が広がった ②就職後に中国人と関わる機会が多く、中国語を使い職場に貢献している</p> <p>課題 ①高校生にふさわしい教材開発と効果的指導方法の研究が必要である ②県全体の中国語教育の普及を図るとともに、学習水準を高める必要がある。同時に、中国語教育に関する教員のさらなる中国語運用能力向上に努めたい ③他校の中国語学習者との交流など、積極的な語学学習の姿勢を養わせる必要がある</p>		
育成が期待できる資質・能力	<p>高校になって初めて学習する科目（中国語実務）であり、中国語の能力の向上だけでなく、異文化等を学習できる機会であり積極的に理解に努め、また自国の文化等も顧みることができ、新しい自分の能力に出会うことができる。</p>		

都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立球磨中央高等学校
テーマ	日本や地域の伝統・文化理解およびグローバルな視点の育成		
<p>0 実施形態</p> <p>「球磨地域学」（総合的な学習時間に位置づけた取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年1単位（3年間の合計3単位） 学年生徒全員を対象に実施 <p>1 目的</p> <p>地域の魅力を再認識し、地域で生きていくことの意義を見いだすことで地域の将来を担う意思と能力を身につける。</p> <p>2 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の自治体・歴史博物館職員等による出前授業や講演の実施 ② 地域企業への訪問 ③ 各種コンテスト（商品開発、観光プラン等）への参加 ④ ①、②、③で得た知見の成果発表を予定 <p>3 成果と課題</p> <p>「球磨地域学」は平成29年度から球磨中央高校（商業科2クラス、情報処理科1クラス、地域未来探究科（普通科）1クラスの3学科構成）開校にあわせて「総合的な学習の時間」の位置づけで1学年全クラスを対象に開始された取り組みである。学科には普通科も含まれるため、「商業教育における」と言い切れない部分もある。今後、2学年、3学年においても継続して（各学年1単位）取り組む。</p> <p>今年度から開始した取り組みのため、成果と課題はまだ不明である。</p>			
育成が期待できる資質・能力	日本（地域）や世界の課題を解決するため「地球規模でものごとを考え、地域の視点で行動」できる資質・能力の育成を目標に取り組んでいる。		

都道府県名	大分県	学校名	大分県立大分商業高等学校
テーマ	商業教育を通じ、国際感覚を身につけた能力を養い、世界に羽ばたく人材を育成する		
<p>1 目的</p> <p>国際経済科 修学旅行</p> <p>①商業教育の特性を生かしたプログラムに取り組むことにより、豊かな人間性や専門的知識を身につける。</p> <p>②日本を取り巻く世界への関心と国際理解を深め、国際的視野での発想力を育成する。また適応性・柔軟性に優れた時期に異文化を体験することにより、より豊かな感受性を育てる。</p> <p>大韓民国 木浦女子商業高等学校との姉妹校提携 海外の高校生との交流を通して、生徒の「挑戦意欲と責任感・使命感」、「多様性を受け入れ協働する力」、「大分県や日本への深い理解」、「知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力」を育成する。</p> <p>台湾ウェーガー（葳格）高級中學校 学校訪問</p> <p>2 内容</p> <p>国際経済科 修学旅行 平成29年2月11日（土）～2月15日（水） シンガポール・マレーシア方面 ジョホールバルで学校交流・現地日本企業訪問・セントーサ島内研修 シンガポール市内班別自主研修</p> <p>大韓民国 木浦女子商業高等学校との姉妹校提携 平成28年10月28日 昨年度は木浦女子商業高等学校より研修団14名来校平成28年10月27日～28日 本年は本校より木浦女子商業高等学校へ研修団13名訪問 訪問日時 9月13日(水)～16日(土)（3泊4日） 寄宿舍1泊、韓国ホストファミリー宅にホームステイ2泊 学校訪問 生徒との交流</p> <p>台湾ウェーガー（葳格）高級中學校 学校訪問 平成28年5月16日</p> <p>3 成果と課題</p> <p>国際経済科生徒によるシンガポール修学旅行 ジョホールバルでの学校交流を通じて、異文化理解が深まった。実際に現地に赴くことで、国際的感覚を養うことができた。</p> <p>木浦女子商業高等学校へ研修団訪問 ホームステイを通じて隣国同士の交流が深まった。</p> <p>課題：正解的情勢の変化により、海外への訪問・修学旅行について保護者の間から危惧する声が増加している。</p>			
育成が期待できる 資質・能力	英語力の向上・物事の捉え方がグローバル化し異文化を理解し、国際感覚豊かな能力を育成できる。		

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立都城商業高等学校
テーマ	課題研究「中国語講座および中国についての研究」		
<p>1 目的</p> <p>中国語や中国の歴史文化および経済状況に興味のある生徒、将来大学へ進学し中国語または中国に関する歴史文化および政治経済等について学ぼうとする生徒を対象に、中国語の言語学習および中国の歴史文化および経済状況に関する調査研究等を行う。学習を通して、国際的なビジネスにおける中国語によるコミュニケーションの意義や役割、文化の違いを踏まえた国際協調の精神および一般的な商習慣の違いについて理解させる。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 指導体制 中国人講師および商業科教師によるチームティーチング</p> <p>(2) 指導内容 ①中国語の基本的な会話学習（日常的会話を中心とした学習） ②中国に関する歴史文化および経済に関する調査研究 ③プレゼンテーション技法の習得および作成 ④調査研究内容の発表および中国語による会話の発表</p> <p>3 成果と課題</p> <p>本校は平成 28 年度まで国際経済科があり、「都商イングリッシュデイ」という高大連携事業や短期留学生受け入れ、また「中国語実務」という科目を実施してきた。しかし、平成 27 年度入学より募集停止となり、平成 28 年度卒業で閉科となった。そのため、外国語教育や異文化や国際経済などを学習し、グローバル人材育成のため、課題研究に「中国語講座および中国についての研究」を設定した。今年度は 12 名の生徒が選択し学習している。指導体制および指導内容は上記のとおりであるが、生徒たちは意欲的に取り組み、調査研究発表や中国語会話の発表など成果を出している。</p> <p>次年度以降は、新学習指導要領や現在求められるグローバル人材育成のために、学科にコース制を導入し、外国語教育および国際経済に関する科目を設定し、人材の育成に取り組んでいきたいと考えている。そのために、教育課程の検討や指導者育成など課題が多く、組織的・計画的な取組が必要となり、検討チームの編成や外国語指導者の人材確保を行わなければならない。</p> <p>本県は他県に比べ、専門高校が多く存在している。また本県は観光資源が多く、スポーツランド構想や観光立県を目指しているため、商業教育に対する期待も大きい。そのため、グローバル人材の育成は重要であると考え、今後も取り組んでいきたい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>(1) 語学力およびコミュニケーション能力</p> <p>(2) 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感</p> <p>(3) 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ</p> <p>(4) 幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力</p>		

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立明桜館高等学校
テーマ	スパイシーな国際交流ビジネス		
<p>1 目的</p> <p>本校商業科において、政府の「インバウンド」強化により、グローバルコミュニケーションスキルと海外取引の知識を備えた人材の育成が求められる中、第二外国語（ハングル・中国語）を教育課程に設定し、「おもてなしの精神」を活用しながら、留学生の方々との文化交流を通し、本県並びに地域のPR活動に取り組みさせている。「食」をテーマに掲げ地元の素材を使い「商品開発」を行い、地域だけでなく海外の方々からも様々な意見を頂き、本校の創立十周年記念行事の記念品としての計画も視野に入れながら、商品の企画・開発に取り組ませる。</p> <p>2 内容</p> <p>科目「課題研究」において、「チャレンジ明桜館事務局！」を発足させ、地元郡山地区の方々と共に参加する「地域貢献活動」を実施している。「商業科で学んだことを生かして母校に貢献する。」をテーマに、地域や企業、公共機関へと活動の輪を広げ、母校愛から地域を育む活動を展開する。</p> <p>1年半後の本校創立十周年記念行事を見据え、国際交流活動を通して様々な方々から意見を頂き、「カレー」の商品化を念頭に、「NPO 法人国際理解プログラム研究会」理事長の大重龍三氏と話し合いを開始した。「商業教育におけるグローバル化人材の育成」の観点からも将来的には海外での販売も視野に入れ、生徒が輸出の実務や当該国の税関法や食品衛生法等の法令・規制に従って販売する手続き等について、英語や第二外国語を活用しながら主体的に学ぶことを期待する。国際的な商品として、世界販売の企画から販売実践まで関連する諸手続き等に関する課題を設定し、生徒自らが積極的に解決していくことを期待し、「スパイシーな国際交流ビジネス」というテーマを設定した。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>本校商業科では、資格取得を推進する教育から課題解決型教育の深化のため自ら設定した課題に対し、生徒自らアプローチし、解決を図るための「学び」を展開させ、「自らの力」で成功できる体験を多く持たせ、次の課題解決に向けて成長を促すというボトムアップ型の教育を理想としている。</p> <p>生徒の主体性や協働的な姿勢など、目標を達成した生徒を正當に評価するにはどうすればよいか、難しい課題が残されている。「郡山から国際交流の場として世界へ発信出来るか」の仮説を立て、「カレー」をツールとし、国際交流の企画に取り組ませている。科目「課題研究」という週2時間という限られた授業の中で、時間的な要素を考慮しながらしっかりとした授業計画を立てる困難さがあり、具現化できるか不安もある。更に「知的財産権」についても取り組み、地域と学校がフィードバックして進めていかなければならないので、地域との連携を更に深めていきたい。</p>			
育成が期待できる資質・能力	<p>本校商業科の生徒の多くは地元企業等に就職し、地域を支える人材という観点から大きな役割を担っている。観光立県として産業振興に貢献でき、企業のグローバル化に貢献できる人材が必要とされ、ホスピタリティーの精神で、海外の方々と積極的にコミュニケーションを取ろうとする人材としての育成が期待される。</p>		

都道府県名	沖縄県	学校名	沖縄県立那覇商業高等学校
テーマ	海外研修旅行（ロサンゼルス、台湾）を通じたグローバル人材の育成		
<p>1 目的</p> <p>(1) ロサンゼルス：海外研修旅行におけるホームステイや現地学校への体験入学などを通して国際理解を深めるとともに、外国語によるコミュニケーション能力を育成する機会とする。</p> <p>(2) 台湾：①外国旅行の体験を通して国際理解を深め、広く交際的視野に立ち異文化を理解する心を育て、日本人としての在り方を考える。 ②常に探求的な心や態度を養い、異文化の中で母国の現状を考える機会とし、国際人としての在り方、生き方を考える。 ③企業研修を通して海外での物流サービス業者の仕組みを体験することで、国際的に活躍できる人材育成を目指す。 ④現地の高校生または大学生との交流を通して、その国の文化への理解を深める機会とするとともに、他国の同世代と交わり、人間的触れ合いを深める。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) ロサンゼルス：①対象：2年国際経済科40名で6泊8日 ②研修内容：ホームステイ、現地高校体験入学&交流、主な観光地見学等</p> <p>(2) 台湾：①対象：2年商業科160名で3泊4日 (平成29年度より3学科の2学年全員の320名実施予定) ②研修内容：現地高校体験入学&交流、台北市内を大学生が案内、著名な企業訪問、主な観光地見学等</p> <p>3 成果と課題</p> <p>(1) ロサンゼルス ①成果：研修に参加することでコミュニケーションをつけ英語力も向上した。 ②課題：a 研修費が高い b ホームステイ先の受入格差 c 日程が短い d 健康管理</p> <p>(2) 台湾： ①成果：海外への見識を深め進路決定に役立てることが出来た。 ②課題：中国語等の授業等を通じた事前の準備が必要。</p>			
育成が期待できる資質・能力	① コミュニケーション能力の向上。 ② 英語力の向上。 ③ アジア文化の認識と言語を理解して外国人観光客に対応出来る人材。		

〈考察〉

実践事例の「有成が期待できる資質・能力」の集計結果として、最も多かった項目は「コミュニケーション能力の育成・向上」で、31校であげていた。ここでのコミュニケーションは広い意味で使われており、英語でのコミュニケーションも含まれている。2番目は、「語学力（表現力）の育成・向上」で、19校であげていた。「グローバル化」というテーマを考えれば、上位にでてくるものとは予想された項目である。言語としては、英語が多いが、中国語や韓国語、ロシア語もいくつかの高校で実践例があった。3番目は、「人間力（ホスピタリティ、多様性を受容する能力、広い視野、等）の育成」で、15校であげていた。また、4番目は2項目あり、「主体性やチャレンジ精神の育成」と「日本文化や地域・異文化理解の深化」で、13校であげていた。6番目は「問題解決能力の向上」で9校、7番目は「グローバルな視野、グローバルな感覚等の育成」で8校であった。それ以下は、1～2校の項目なので省略する。

データを集計して見えてくるものは、「ホスピタリティ」や「多様性を受容する能力」について多くの学校があげていたことである。順位では3番目になるが、項目としてはっきりとそう書かれていなくても、文章の端々に、そういったニュアンスが伝わってくる。世界の様々な場所でビジネス活動を行うということの基本は、やはり「人間力」と考える人が多いのだと改めて感じた。

また、外国との交流活動については、外国への修学旅行が7校、外国への研修旅行が8校、海外の高校との交流が10校、海外での販売実習（インターンシップを含む）が3校と、積極的に取り組まれていることがわかった。

おわりに

前回に引き続き、グローバル化する社会に対応できる人材を商業教育の中でどのように育成していくべきかをテーマとしました。前回のアンケートでは、グローバル化社会に対する対応の現状を中心に伺いました。各商業高校では、英語など外国語によるコミュニケーション能力や、課題解決能力、プレゼンテーション能力の必要性から、語学力向上やメディアリテラシーの育成、コミュニケーション能力の向上に資する様々な教育活動に取り組んでいることがわかりました。今回のアンケートでは、より具体的な取組を調査すべく詳細な項目にわたってのご意見を頂戴いたしました。ご多忙にもかかわらず、アンケートにお答えいただいた各都道府県の校長先生方には深く感謝申し上げます。

グローバル化社会に対応するためには、まずは世界の文化の多様性を尊重し、受け入れる寛容な姿勢を育むための教育が必要です。グローバル化の進展によって全世界が相互に連結していくような社会に移行し、異なる文化・文明の交わりが広範囲で進んでいくことが予想されます。このことは、異なる価値観を持つ人々の間での互いを理解していないことに起因する摩擦を生み出す危険性があります。このため、異なる文化・文明を理解、尊重し受け入れる寛容さを育てていく必要があります。各学校においてコミュニケーションツールとしての英語力の向上や、外国を理解する上での日本の伝統・文化理解教育の推進など、様々に取り組んでいる学校が増えています。

また、世界規模の課題に対応する姿勢を育むための教育も重要です。地球温暖化などの環境問題や宗教や歴史的な背景から対立する地域の存在、さらには金融やエネルギーなどグローバル化の進展とともに複雑化、深刻化していく課題もあります。新学習指導要領では、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくための資質・能力の育成を求めています。商業科目を学ぶ生徒たちは、商業で学んだ知識や技能を基に、商業にかかわる課題解決を考える授業をとおして思考力、判断力、表現力を磨くことができます。商業教育を充実されることでグローバル化社会の中で生きていくための幅広い視野をもち、発表、討論、交渉等を行うことができる能力を身に付けることが可能です。

各学校においては、新学習指導要領の改訂も視野にいれながらグローバル化社会を生きるこれからの世代を育成していくための教育課程の改善に努めていく必要がありますが、その際に本資料にまとめられたアンケートの集計結果や各県の実践事例を活用いただければ幸いです。今回の春季研究協議会でもこのことについて活発な研究協議がなされ、全国の校長先生方から多くの意見をいただくことで、各商業関係高校の更なる発展に資するものとなることを願います。

本部提案テーマ年度別一覧

昭和60年 5月	理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について
昭和60年10月	理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況
昭和61年 5月	企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について —アンケート調査に基づいて—
昭和61年10月	就職状況の変化に対応する進路指導対策について —アンケート調査に基づいて—
昭和62年 5月	商業科に関する新しい小学科の設置状況について
昭和62年10月	生徒の急減期における商業高校としての対応
昭和63年 5月	教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望 —アンケート調査に基づいて—
昭和63年10月	将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて—
平成元年 5月	時代の変化に対応する商業教育の展望 —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成元年10月	高等学校学習指導要領の実施にむけて —教科「商業」にかかわる一問一答集—
平成2年 5月	問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開 —課題研究」の研究と実践の推進—
平成2年10月	高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方 —新学習指導要領の取り扱いと学校における対応—
平成3年 5月	21世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて—
平成3年10月	21世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて—
平成4年 5月	生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して—
平成4年10月	新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成
平成5年 5月	商業教育に関する「聴取り調査」報告
平成5年10月	商業に関する学科の特色化・個性化について —教育課程を中心として—
平成6年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—大学進学—
平成6年10月	進路の多様化に対応する商業教育 —専攻科及び高等専門学校の構想—
平成7年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—就職指導—
平成7年10月	高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題—
平成8年 5月	社会の進展と商業教育の充実 —これから求められる専門教育の育成—
平成8年10月	社会の進展と商業教育の充実 —商業教育における基礎・基本の内容をさぐる—
平成9年 5月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —「生きる力」の育成に対応するための商業教育—
平成9年10月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —社会の変化に対応した商業教育—
平成10年 5月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —新しい情報処理教育の在り方について—
平成10年10月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —地域や産業界との連携と開かれた商業教育について—
平成11年 5月	社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方 —新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題—
平成11年10月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—

平成12年 5月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成12年10月	就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方
平成13年 5月	21世紀における商業教育—大学から見た商業教育—
平成13年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校からの大学進学—
平成14年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校が育成する商業高校生像—
平成14年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における学校改革—
平成15年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における起業家育成教育—
平成15年10月	21世紀における商業教育の在り方 —学校・企業・地域等との連携を考える—
平成16年 5月	全商本部提案要約集—平成元年～平成15年度—
平成16年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)—
平成17年 5月	21世紀における商業教育の在り方—生徒の職業観・勤労観を考える—
平成17年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ—
平成18年 5月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成18年10月	学習指導要領改訂への提言
平成19年 5月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について
平成19年10月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について ※ 冊子なし
平成20年 5月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成20年10月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成21年 5月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—
平成21年10月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成22年 5月	新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題
平成22年10月	新高等学校学習指導要領と今後の商業教育
平成23年 5月	キャリア教育の現状と課題について
平成23年10月	キャリア教育・商業教育の在り方について —生徒のよりよい進路実現を目指して—
平成24年 5月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅠ —魅力ある商業教育の発展を目指して—
平成24年10月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅡ —魅力ある商業教育の発展を目指して— ※ 冊子なし
平成25年 5月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅠ —商業教育の質の向上を目指して—
平成25年10月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅡ —商業教育の質の向上を目指して—
平成26年 5月	全商本部提案要約集—平成16年度～平成25年度—
平成26年10月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅠ—
平成27年 5月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅡ—
平成27年10月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成28年 5月	学習指導要領改訂への提言
平成28年10月	地域創生に資する商業教育の在り方について
平成29年 5月	地域創生に資する商業教育の在り方についてⅡ 一次世代の商業教育に向けて—
平成29年10月	グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について一次世代の商業教育に向けて—

グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ

— 次世代の商業教育に向けて —

発 行 平成30年 5月21日
発行編集 全国商業高等学校長協会
商業教育対策委員会
〒160-0015
東京都新宿区大京町26番地
T E L 03-3357-7911
F A X 03-3341-1039